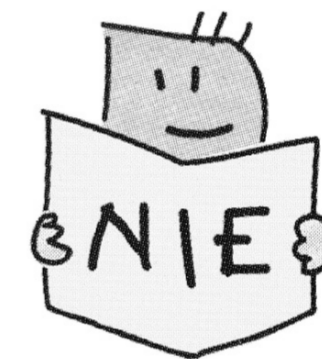


2011年度 沖縄県NIE実践報告書



Newspaper in Education

沖縄県NIE推進協議会

2011年沖縄県NIE推進協議会実践報告書

目次

ごあいさつ（山内彰会長）・・・・・・・・・・・・・ 1

実践報告

小学校

- 那覇市立小禄南小学校（奥間ナリ子教諭）・・・・・・・・・・・・・ 2
- 沖縄市立越來小学校（古波津聡教諭）・・・・・・・・・・・・・ 11
- うるま市立勝連小学校（伊波鉄也教諭）・・・・・・・・・・・・・ 16
- 読谷村立喜名小学校（大城智紀教諭）・・・・・・・・・・・・・ 21
- 宜野座村立漢那小学校（宮里浩文教諭）・・・・・・・・・・・・・ 28
- 宜野湾市立宜野湾小学校（佐久間洋教諭）・・・・・・・・・・・・・ 33
- 北中城村立北中城小学校（甲斐崇教諭）・・・・・・・・・・・・・ 38

中学校

- 読谷村立読谷中学校（宮城秀輝教諭）・・・・・・・・・・・・・ 42
- 与那原町立与那原中学校（兼松力教諭）・・・・・・・・・・・・・ 47
- 豊見城市立豊見城中学校（仲程俊浩教諭）・・・・・・・・・・・・・ 52

高 校

- 県立真和志高校（新田誠教諭、宮城千恵教諭）・・・・・・・・・・・・・ 58

資 料

- 沖縄県NIEアドバイザー紹介・・・・・・・・・・・・・ 62
- 2011年度活動報告・沖縄県NIE運動の経過・・・・・・・・・・・・・ 63
- 沖縄県NIE推進協議会組織・県内NIE実践校リスト・・・・・・・・・・・・・ 66
- 第16回NIE全国大会の記事と特集・・・・・・・・・・・・・ 68、69
（2011年7月26、27、30日付沖縄タイムス）
- 大城浩県教育長表敬記事（2012年2月16、18日付琉球新報）・・・・・・・・・・・・・ 69
- 第5回県NIE実践フォーラム特集・・・・・・・・・・・・・ 70、71
（2011年11月15日付琉球新報）

ごあいさつ

沖縄県NIE推進協議会
会長 山内彰

1989年に本格的に始まった日本のNIE（Newspaper in Education＝教育に新聞を）活動は、沖縄県内でも情熱あふれる教師たちにより地道な取り組みが続けられ、学校と新聞社、教育行政の連携・支援により、その効果が表れ始めています。「言語活動の充実」が掲げられた新学習指導要領の下、教育現場で新聞を活用する「NIE」は児童生徒らが「読む」「書く」「考える力」を養う格好の機会となっています。

2011年度は小禄南、宜野湾、越来、勝連、漢那、喜名、北中城の7小学校と読谷中学校、真和志高校の9校が、日本新聞協会から実践指定校の認定を受けました。地元2紙による独自の県指定校は、与那原、豊見城の2中学校です。いずれも2010年度から継続しての指定となりました。2011年9月には、実践校の担当教諭3人が新たに日本新聞協会のNIEアドバイザーに認定され、計4人体制となりました。実践経験豊かなアドバイザーを中心にNIEの取り組みがさらに広がり、これまで以上に教育現場での新聞活用が充実していくものと期待しています。

沖縄は多くの米軍基地を抱える一方、芸能や文化の独自性、スポーツで活躍する選手の話など新聞で報じられるニュースは多岐にわたり、課題も多く抱えています。その中で未来を担う子どもたちが身近なニュースに触れ、自ら考えるという学習が大切になってきます。

NIE実践校の担当教諭の実践は内容が濃く、さまざまな工夫がこらされた実践例が紹介されています。今回、このようなNIE実践校の取り組みを「2011年度報告書」にまとめました。本書の事例などを参考にいただき、県内NIE活動がさらに広がり、深まっていくことを願ってやみません。子どもたちと共に、楽しく授業に取り組んでもらえれば幸いです。

総合的な読解力・表現力の育成 ～学習材として新聞の教材化を図る～

那覇市立小祿南小学校
校長 山城 銀子
教諭 奥間 ナリ子

1. はじめに

本校は平成22年度より国語科を研究教科に取り上げ、研究主題を「読みの力を活用する児童を育む国語科授業の実践～説明文の読みを通して～」とし、その読みの力を活用させる一手段として NIE 実践を全学年で取り組んできた。今年度は、2年間の研究の成果として、28学級で NIE の授業を公開し、研究発表を行った。

各学年では、この2年間、国語科を中心に研究を進めてきたが、本来 NIE はさまざまな教科・領域で取り組める活動であり、国語科だけでなく、他教科との関連も考えて実践を行ってきた。年度初めに本校独自の NIE 年間指導計画を作成し、必要に応じて追加修正を行いながら実践を重ねた。

その結果、11月の NIE 実践フォーラムでは、国語科だけでなく他教科においても、総合的な読解力・表現力の育成を意識した新聞の教材化を図った NIE 実践発表を行うことができた。

実践の概要は、下記の通りである。

2. 実践の概要

二年前、本校において「NIE」と聞いたことがあっても具体的な内容までは知らない教師がほとんどであった。そこで、NIE について教師自身が学ぶということから本校の NIE はスタートした。NIE に関する資料を NIE 資料センターからいただいたり、各新聞社のホームページから NIE 情報を得たりして資料収集を行い、教員間で共通理解を図った。また、NIE 公認アドバイザーの兼松力先生による NIE 研修で理論・実践方法を学び、22年度後半より「できるところから NIE を」として各学年で取り組みを始めた。

1年目の実践内容は、以下の通りである。

- 1年：国語 「かたかなのなかまわけをしよう」
- 2年：国語 「新聞から知っている漢字をさがそう」
- 3年：図工 「私のお気に入りの写真をかざろう」
社会 「私の町の記事を集めよう」
- 4年：国語 「新聞の中にある語句を使ってみよう」
- 5年：国語 「日本語について調べよう」
- 6年：国語 「興味のある新聞記事の要点をまとめ、自分の考えを発表しよう」

2年目は、新聞を取り入れた授業を年間教育計画に明記し、単元目標に到達するための NIE、時事的に取り入れる NIE、継続的な NIE（朝の会での記事紹介の発表、スクラップ等）と各学年の発達段階に応じた取り組みを目指した。また、教員の入れ替わりもあったので、引き続き公認アドバイザーの兼松力先生の理論・実践研修とともに、NIE 全国大会に参加した教員による伝達報告を共通理解しながら NIE 実践を深めた。

今年度の各学年の実践報告は次の通りである。

※指導工夫改善（算数）での実践を通して

算数で学習したことが生活にもいかせることを実感させることで、学習意欲と、活用力の向上を図って、算数学習にも NIE を取り入れて実践した。

5年の算数学習で一番定着が難しく、学習内容が生活に密着している単元「割合」において、新聞記事や新聞広告を使った NIE 実践を行ったところ、それまでなげに触れていた生活の中の割合に気づき、学習の楽しさを実感させることができた。



←新聞・チラシから生活につなげた学習

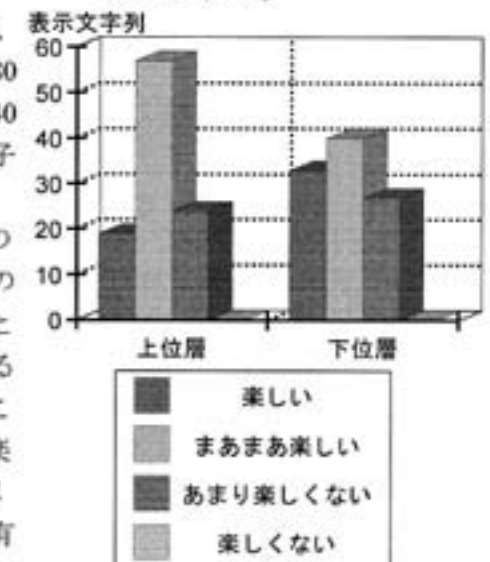
感想より

割合を使うとお得に買い物ができることを初めて知りました。消費税10%はみんなの幸せのためならしかたがないけど、ちゃんと使って欲しいです。

一年間を通した算数学習に関するアンケートで Q. 新聞を使った算数の学習は楽しいですか。

新聞を活用した算数学習について聞いたところ、上位層（単元到達率80%以上）が楽しい：19%、まあまあ楽しい：57%、下位層（単元到達率80%以下）が楽しい：33%、まあまあ楽しい：40%と、どちらも7割となっているが、下位層の子達の楽しい割合が高い結果となっている。

理由として、上位層が「気づかなかった情報の見方がわかるから」「身近な新聞から算数するのが楽しい」とあげたのに対し、下位層は「習ったことを使うのが楽しい」「いろいろと読み取れるのが楽しい」とあげていた。上位層は「読む」ことを、下位層は「学習したことを使う」ことを楽しいとしている。NIE は、基礎基本の定着を確認の上でも、活用力を培う上でも一指導法として有効と思われる。



3. 成果と課題

今年度の実践では、2年間の成果として、これまでの実践を整理し、各学年の発達段階に応じた、各教科に渡る NIE を行うことができた。そして、これらの実践により、児童が社会の情報に関心を寄せるようになり、自分の意見や考えをもつことができるようになってきた。また、児童自ら、家庭学習として、新聞記事のスクラップをして自分の考えを書いたり、玄関前や学年掲示板の NIE コーナーに見入ったりする姿が多く見られるようになり、表現力やコミュニケーション能力が育ってきていると感じている。

今後の課題としては、これまでに積み上げてきた2年間の実践が継続できるように、学習指導における新聞活用の手立てをさらに工夫していきたい。

	楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
上位層	19	57	24	0
下位層	33	40	27	0

1年の実践

取り組み内容

①単元目標に到達するためのNIE

単元名 メモをつかってしようかいしよう

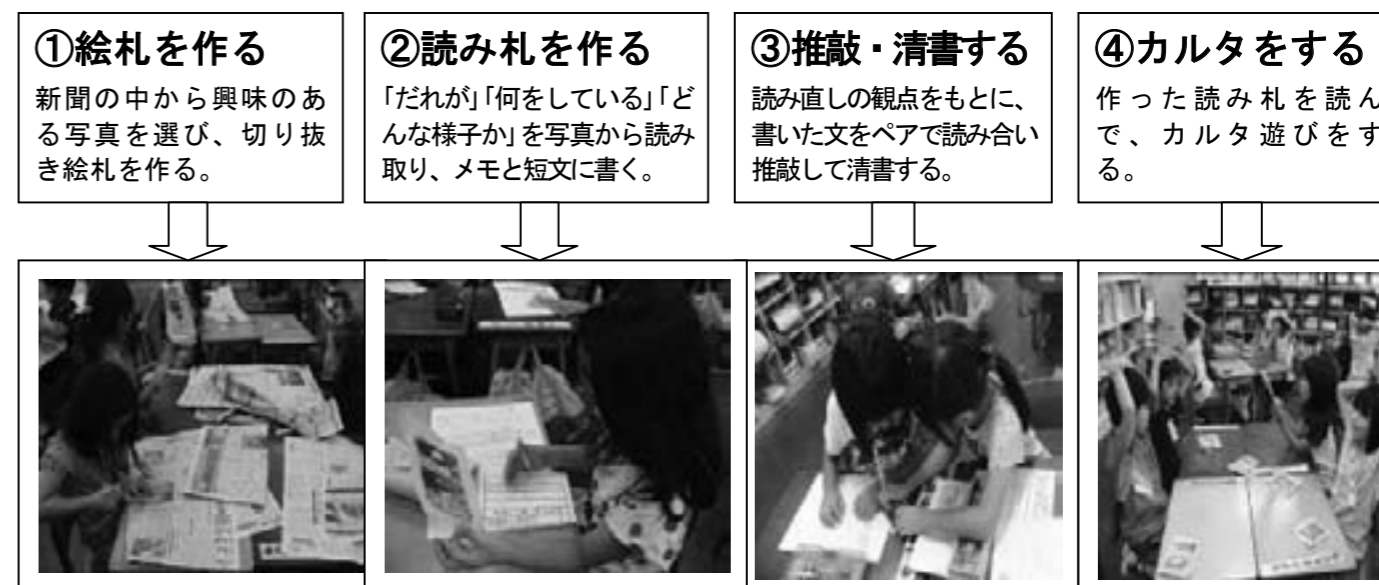
単元目標 メモを用いて、紹介したいことを簡潔な文章で書くことができる。

本時の目標 書いた文章を読み直し、カルタを完成させて楽しく遊ぶことができる。

指導観 これまで、児童は説明文の学習で、写真と文を結びつけながら、内容を読み取ってきた。また、紹介したいことを短い言葉でメモに書くことも学んできた。

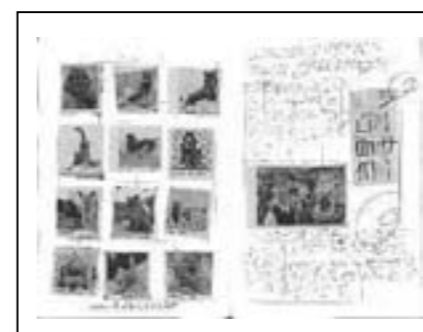
ここでは、今まで学習してきたことを活かし、写真から読み取ったことや感じたことをメモにまとめさせ、短文に表現させたいと考えた。

授業の流れ



週末にやる自主学習の例として、「新聞スクラップをやろう」と呼びかけ、やってきている子がいる。興味のある記事をがんばりノートに貼り、その感想を書いたり、はじめて分かったことを書いたりして、まとめてきている。

また、記事に出てくる言葉の意味を調べたりするなどの発展学習を行う子もいる。



第2学年の実践

1 取り組み内容

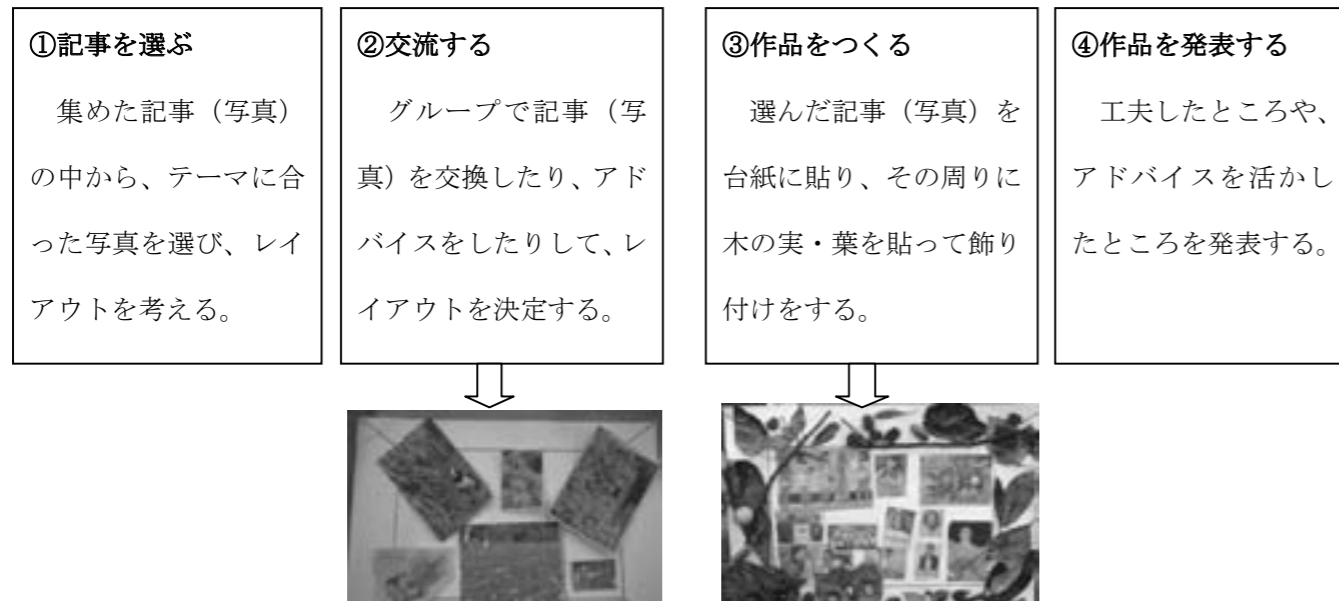
①単元目標に到達するためのNIE

- ・新聞の記事(写真・絵)を使うことで、新聞に興味をもち、親しめるようにした。自分が決めたテーマ(秋・笑顔・スポーツ・沖縄など)に合った記事(写真・絵)を集め、その中から気に入った物を選び、台紙に貼り、生活科の「秋をみつけよう」で集めた木の実や葉などを飾って作品を作った。

教材名 あつめて かざって たからもの(11月)

目標 新聞から集めたお気に入りの写真や絵を使って、自分なりの表し方を見つけ楽しく作品を作ることができる。

授業の流れ



②継続的なNIE

- ・新聞コーナーを設け、係活動の一環として子ども新聞(ワラビー・りゅうPON)を掲示し、紹介している。
- その記事に対して、一言感想(付箋紙)を書いて貼る。
- ・家庭学習に新聞記事をスクラップして感想や自分の考えを書いている。



2 成果・課題

成果

- ・新聞に興味・関心を持つようになってきた。
- ・気になった記事を持ってきて発表したり、家庭学習に記事についての感想を書いたりする子が出てきた。

課題

- ・新聞を購読していない家庭もあり、思うように記事を集めることができなかった。

3年の実践

1. 取り組み内容

①単元目標に到達するためのNIE

11月単元「漢字の組み立て(一)」では、「へん」「つくり」などの漢字の構成についての知識を得、漢字を正しく読んだり書いたりする学習をした。その発展として、新聞の記事に書かれた数多くの文章から自分が調べたい特定の「へん」や「つくり」の漢字を見つけ、ワークシートに書き写させた。新聞には多くの漢字が使われていることに気づくとともに、今後の漢字学習や漢字辞典の活用に興味を持って取り組むようになった。

本時の教材名

「漢字の組み立て(一)」

本時の目標

「へん」や「つくり」などの漢字の構成について理解し、漢字への興味・関心を高める。

実施方法

- ①自分が調べたい「へん」や「つくり」を選ぶ。
- ②自分で選んだ「へん」や「つくり」の漢字を新聞から見つける。
- ③見つけた漢字を赤ペンで印をし、ワークシートに書き写す。
- ④見つけた漢字を発表しよう。

【児童のワークシート】



【お父さんと仲良く漢字見つけ】



【見つけた漢字を発表しよう】



2. 成果・課題

成果

- ・新聞には多くの漢字が使われていることに気づくとともに、今後の漢字学習や漢字辞典の活用に興味を持って取り組むようになった。
- ・新聞を使った授業の後、日記に使う漢字の数が増えた。
- ・新聞を開ききっかけになり、家庭学習でスクラップを始める児童が出てきた。

課題

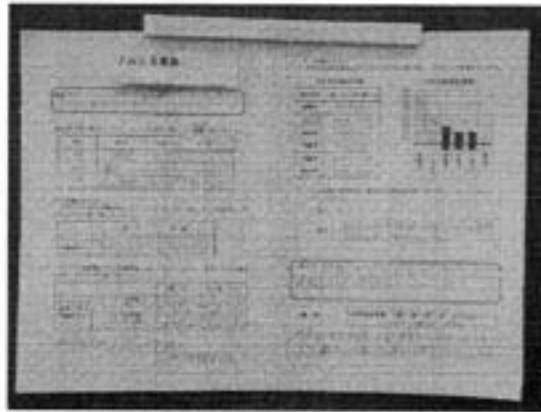
- ・教科に挿入する際の時数の確保
- ・新聞に対する興味・関心を家庭でどう持続させるか。

4年の実践

(1) 授業実践 11月公開授業実施

①国語「漢字の広場⑥ 熟語の意味(1)」
新聞の見出しから既習の漢字を見つけ、それらを再構成し熟語作りをする。

②算数「よみとる算数(1)」
新聞記事の数多くの資料から、必要な情報を読み取り、問題を解いていく。



(2) その他の授業での取り組み例
①国語「学級新聞を作る」「新聞の見出し付け」
②算数「概数」「ごみのゆくえ」
③社会「ごみのゆくえ」

(3) 時事的に取り入れたNIE
朝の会、道徳の時間等を利用し、その時期、時節に関する記事、話題を提供した。
例：「世界のウチナーンチュ大会」「東日本大震災」「四季折々の話題」

(4) 継続的なNIE
①朝の活動や宿題等での取り組み

☆四コマ漫画の並び替えや吹き出しへの台詞入れ
・あらかじめ順番をばらばらにしておいた四コマ漫画の並び替え
・吹き出しへの台詞入れ
☆「新聞記事を読もう」
・記事を読んだ感想を書く。
・新聞記事を読んで質問に答える。
・友だちと意見交換をして感想を書く。



②学年掲示板上に「NIEコーナー」を設置
新聞に関するコンクールの呼びかけ、新聞記事の紹介、学習に関する記事の紹介、各種コンクールの結果発表などの掲示を行った。

5年の実践

取組内容

(1) 授業実践 11月公開授業

①算数「読み取る算数」
新聞記事の中にある複数の資料から必要な情報を選択し、内容を読み取り問題を解いていく。

①道徳
動物愛護に関する記事から生き物に対する関わり方や飼い主のモラルについて考えさせる。



(2) その他の授業実践

③算数「割合」
新聞の折り込みチラシを使い、そこにある商品の割引率から実際の値段を求める。

(3) その他の取り組み

- ①宿題等に新聞スクラップ取り入れ、新聞に興味関心をもたせる。
- ②新聞社主催の新聞スクラップコンテストに学年全体で取り組み、入賞者も多数。
- ③四コマ漫画の吹き出しへの台詞入れ。






6年の実践

1. 取り組み内容

単元名 意見文を書こう
単元目標 課題を見つけ伝えたい事柄を整理し、図や表を利用しながら意見文を書く。
本時の目標 新聞から興味関心のある記事を見つけ、それに対する自分の考えを自由に書き出し、内容を伝えることができる。
指導観 新聞を資料収集の手段にすることで「タイムリーな話題を提供すれば、社会に対する関心を持たせやすい」と考えた。

6年生では、児童一人一人が興味や関心のある新聞記事を選び、意見文を書くための情報を収集しスクラップにまとめる授業を実践した。記事を選んだ理由や記事の要約、感想を記入した上で、グループで意見交換をする。社会への関心を高めながら多様な意見があることを実感し、自らの考えを深め合った。

<p>1 新聞から興味や関心がある記事を選び、内容を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大事なところにはマーカーで線を引きながら読む。 ・ 読めない漢字や分からない言葉は辞書で引いたり、人に聞いたりする。 	
<p>2 記事を切り取りスクラップノートに貼る。</p>	
<p>3 ワークシートに記事を選んだ理由や「5W1H」を記入し、内容を要約して、感想を書かせる。</p>	
<p>4 記事の内容や感想について、グループのみんなと交流する。</p>	

2. 成果・課題

成果
 ・新聞スクラップ活動を取り入れたことで、社会事象への興味・関心を持つことができた。また、記事に対する自分の意見や感想を書かせ発表させることで、さらに考えが深まり意見文を書く学習活動へ繋げることができた。

課題
 ・新聞スクラップ活動を継続して行きたいが、購読していない家庭の児童への手立てが課題である。

越来小学校のN I E 実践

沖縄市立越来小学校
 教諭 古波津 聡

1 はじめに
 平成22年度、23年度の2年間、N I Eの実践指定校として、5学年を中心に全職員・全校児童で新聞を活用した実践に取り組んできた。また本校の校内研修の研究主題である「思考力をたかめ生き生きと表現できる子の育成～各教科・領域での言語活動の充実を通して～」とリンクさせ、教科を限定せず、児童が感じたことや考えたことを、根拠をもって表現できるように新聞の良さが十分活かされるような場を設定して活動を行った。

2 新聞と児童達との実態
 N I Eを実践していくにあたり、「新聞」についての児童の実態を把握するためにアンケートを実施した。アンケートの結果、児童の家庭における新聞購読率は40%弱である。それに対して、新聞を読んだことがあると答えた児童が80%強であった。家庭で新聞を購読していない児童は、祖父母の家で新聞を読んでいるようである。また児童が読む新聞記事は、テレビ欄、スポーツ、4コマ漫画がほとんどであった。新聞の役割や何が書かれているかわからない児童もいた。
 以上のことから、新聞と児童の関わりが十分でない実態がわかった。そこで、新聞が児童の身近な学習ツールのひとつとして根付かせていけるような活動を計画して行った。

3 N I Eを推進するときのキーワード
 N I Eを実践するにあたって一番大切にしたいことは、児童と新聞をどう向かい合わせるかということである。新聞で使われている言葉や漢字は児童にとって難しい。ただ新聞を児童にあたえても、記事を読むことも意味を理解することも容易ではない。自分の考えや感想をもつことは大変な作業である。
 そこで大切にしたいキーワードが、新聞に「触れる」ということであり、「読ませる」のではなく、児童に新聞に「触れる」ことを意識させた。「触れる」ことで、新聞に興味をもち、自分の気になる記事を見つけ、その記事を読み、そしてその記事への感想を持ち、最後に発信する活動へと導いてきた。

4 実践の概要

平成22年度 実践時期 10月～3月	
教科・領域	国語科・総合的な学習の時間
具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション（新聞の秘密を探ろう！） ・新聞の仕組みを知ろう。新聞記者を招いて。 ・新聞記事を書いてみよう。「沖縄のよさを発信しよう」 平成22年度N I Eフォーラム公開授業 「自分たちの書いた新聞記事に見出しを付けよう！」

平成23年度 実践時期 5月～2月	
教科・領域	国語科・総合的な学習の時間・生活科
具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・東日本大震災の記事を集めよう。(自分たちに何ができるか考えよう) ・記事を比較しよう。(新聞の役割を理解する) <ul style="list-style-type: none"> ①「慰霊の日」について、全国紙と地元新聞の記事の取り扱い方や記事の内容を比較して読むことができる。 ②「原爆の日」について、全国紙と地元新聞の記事の取り扱い方や記事の内容を比較して読むことができる。 ・自分の好きな写真や記事を見つけよう。 自分の好きな写真や記事を見つけ、その写真や記事を選んだ理由や感想を書くことができる。 ・新聞から見つけた写真に、吹き出しをつけよう。 ・平和学習に向けて 沖縄戦について取材を重ねている記者を招いて、講話を聞く。 ・興味関心のある記事を収集し、スクラップ新聞を作成しよう。

5 実践の詳細

(1) 総合的な学習の時間としての実践

オリエンテーション

《NIEワークショップ》



NIEアドバイザー、兼松力先生を招き、新聞基本的な読み方や新聞を活用したワークショップを行った。

ワークショップでは、新聞の記事ごとに切り分けてパズルを作成したり、4コマ漫画のオチの場面の吹き出しを考えたり、即授業で使える新聞の活用術を学ぶことができた。

兼松先生は、新聞は教育の道具（ツール）のひとつであることを強調した

《新聞の仕組みについて知ろう。》



新聞の値段、紙面の構成、記事の書き方など、児童が新聞に対する興味関心が喚起されるように新聞の仕組みについて学習を行った。授業を進める時に大切なことは、児童一人ひとりに新聞を配布すること。そして新聞を「読ませる」のではなく「触れさせる」きっかけをつくることである。新聞記者を招いて授業を行ったことで、児童の興味関心は高まり、楽しくも奥の深い学習になった。

《東日本大震災の記事を集めて、自分にできることを考えよう》(5年)



・総合学習の時間に、児童一人ひとりに新聞を配布し、東日本大震災について書かれている記事を探し、その記事に書かれている内容の説明と自分の感想を書く。それを発表し合い、感想を交流することで、「今、自分にできること」を考えさせた。

《平和学習の事前学習としての取り組み》(6年)



・66年前に多くの一般住民が犠牲になったことなど沖縄戦の概要を説明。9月から連載中の「未来に伝える沖縄戦」の取材経験を踏まえ、「戦争で生き残った人も家族を失った苦しさや学校に行けない苦労があり、今でも戦争を引きずっている。人生を変えてしまうのが戦争だ」と語った。「これからも戦争について考えていきたい」と発表。大城駿希君は「戦争の話は怖いけど、伝えなければ後の世代の人が分からなくなるから、自分たちも伝えていきたい」と力を込めた。

《「スクラップ新聞」を作ろう。》(5年)



・23年度のNIEの学習のまとめとして、「スクラップ新聞」を作成した。「スクラップ新聞」を作るときには、情報を選ぶ・比較する・分類する・再構成するなどの力が必要とするからである。児童は、普段から自分の気になった記事を切り抜き、感想を書く活動を行っている。それを活用して「スクラップ新聞」を作成した。作成するときのポイントの一つとして、視野を広げてもらうためにスポーツ記事を対象外とした。また、記事のレイアウトを再構成したり、色画用紙を使ったりと作品の見栄えにも重視した。児童が自分なりの意見をもつためのステップになったり、友だちの興味関心を知る機会にもなった。

(2) 国語科としての実践

《22年度のNIEフォーラムでの公開授業》(5年)

・「沖縄を発信しよう」



新聞記者を講師に招き、記事の書き方や紙面づくりについて学んできた。そして学習のまとめとして、自分たちの書いた新聞記事に、グループで話し合い、読者に記事を読みたいと思わせるような「見出し」を付ける学習を行った。言葉を選んだり、言葉をつないだり、なぜその見出しをつけたのか理由（根拠）を考えながら見出しをつけることができた。決まった見出しを発表し賞賛し合った。

《記事を比較しよう》（5年国語科研究授業）

①「慰霊の日」についての記事を集める。

新聞を通して「慰霊の日」を考える授業を行った。琉球新報や全国紙から事前に切り抜いた記事を使い、取り上げ方の違いや新聞の役割について考えた。児童たちは、沖縄戦や慰霊の日に関する記事を読みながら、多くの人に情報を知らせることなど新聞の役割を学んだ上で、「二度と戦争をしないために、自分たちも頑張らないといけない」などと、学びを深めることができた。

②「原爆の日」についての記事を集める。



広島・長崎の地元の新聞を取り寄せ、「原爆の日」に対する記事の取り上げ方を調べたり、記事を読み進めることで、福島原発の問題と関連づけて「原爆問題」について考えることができた。また、沖縄戦や原爆について取材を続けている記者の講話（ビデオ）を聞くことで、児童の興味関心が高まり、「原爆（原発）」が「慰霊の日」と同様に後世に語り続けていかなければならないできごとであることを認識する機会になった。

《様子を表す言葉を考えよう》（2年国語科研究授業）



・さまざまな様子を表す言葉について知り、言葉への興味を広げることを目標に授業を行った。

新聞の写真を見ながら「様子を表す言葉」を考えて、文章に仕上げることに挑戦した。児童は上海のシンボルであるオリエンタルパールタワーの夜景を映し出す新聞写真を見ながら、その様子を自分の考えた言葉で表現することができた。

新聞は季節感を表すなど視覚に訴える写真が豊富にあり、容易に手に入れることができる教材である。授業を通して新聞に慣れ親しませることができた。

(3) 生活科としての実践（低学年）

東日本大震災の写真を見て（1，2年）



・あらかじめ担任が選んだ「東日本大震災」の写真を見て、感じたこと・考えたこと等を、自分の言葉で表現する活動を行った。

「家族が亡くなってかわいそう」「家や建物が壊されて怖い」「どうしてこんなことが起きたの？」など、思い思いの感想を書くことができた。

(4) 新聞に触れる・慣れるための実践（全学年）

吹き出しを付けてみよう



・新聞の中から、自分の気に入った人物の写真を見つけ、その人が何を言っているのか考えて書く活動を行った。吹き出しを付けるときのポイントとして、①低学年には、吹き出しの文字数を制限しない。②中学年には、吹き出しの文字数を制限した。（10文字以内）③高学年には、記事の内容に即した吹き出しを付ける。

この学習を通して、児童は新聞を最初から最後までページをめくり、一生懸命写真を探すことができた。高学年では、めくるだけではなく、自分の気になった見出しを見つけると記事を読み始める児童もいた。新聞に対する興味関心を喚起する学習になった。

6 成果と課題

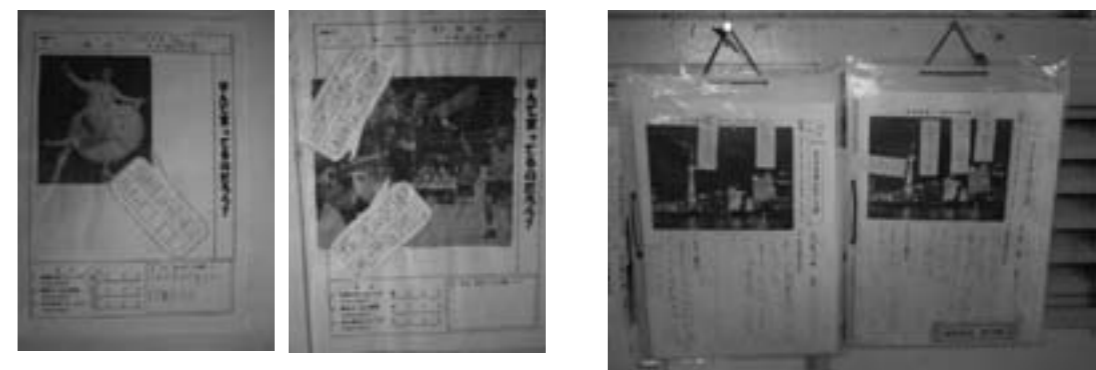
【成果】

- 2年間の実践期間を通して、全児童が新聞に触れる活動を授業で体験し、新聞に対する抵抗感を感じることなく、楽しく学習することができた。
- 社会の動きや出来事に、興味関心をもつ児童が増えてきた。（県内から国内へ、そして海外へ目を向けるようになった。）
- テレビやインターネットのニュースとリンクして、新聞のニュースを読むようになった。
- 自分のなりたい職業に関する記事を見つけて読んだり、記者の話聞くことで「記者になりたい」と思う児童が増えたり、キャリア教育の一環としてNIEの学習を進めることができた。
- 文章を書くときに5W1Hを意識したり、根拠をもって自分の意見を発表したり、児童の言語力や表現力が向上した。
- 新聞記者を招いての出前授業を行ったことで、新聞に対して、より親しみがわくようになった。

【課題】

- 教科や道徳等のカリキュラムの中で、どこでどのような活動を組み込めるか、見通しをもった計画が必要である。（低学年での新聞活用をもっと増やす必要がある。）
- 新聞で使用されている漢字や語句が難しいと感じている児童が多く、その児童への個別指導が必要である。

【子ども達の作品】「気に入った人物の写真に、吹き出しをつけよう。」



勝連小学校 NIE 実践報告書

うるま市立勝連小学校

I はじめに

勝連小学校では、平成22・23年度のNIE指定校として実践を行ってきた。指定当初は、職員の中から「NIEはどう実践すればいいのか」「新聞の活用といっても教科の中にどう位置付けていいのか」「新学習指導要領で新聞活用が挙げられているが、教科は限られてくるのではないか」という不安の声が多く聞かれた。まずは、職員の不安をなくし、多忙感で実践をしていくのではなく、気軽に子どもたちが親しむようにすることから実践していくようにということを共通確認した。

確認の方法としては、一学年をモデルケースとして、短学活（朝の会・帰りの会）で新聞記事の紹介から始め、授業の中での活用という手法をとってきた。それでも、なかなか職員の間には浸透するには時間がかかった。しかし、市教育委員会のバックアップもあり、徐々に意識が変わり、新聞を手に取りやすい箇所においておくと、教師だけでなく児童も自然に目を通すようになり、大きな変化が生じた。

実践としてはまだまだスタート地点に着いたところという感じであるが、誰でも気軽に新聞を活用できるような雰囲気生まれた勝連小学校である。この雰囲気、ぜひ職員の実践が積み上げていければと考える。

II テーマ

豊かな表現力を身につけた児童の育成 ～言語活動を意識した授業実践を通して～
(言語活動における実践での新聞活動を通して)

III 実践の概要

1 NIE指定校としての実践（案）

① 新聞購読の促進

【新聞を活用した授業実践】

例) 新聞に親しむ活動

- ・児童の興味関心に基づく新聞記事の切り抜き
- ・新聞記事の写真を活用して、記事の内容を予想する活動
- ・新聞社への作文の投稿

② 国語の単元における新聞の活用

【新聞記者を招いての授業実践】

例) 新聞記者を授業に招く活動

- ・新聞記者に記事の書き方を学ぶ
- ・カメラマンに写真の撮り方を学ぶ

③ 社会科・総合の単元における新聞の活用

【新聞を活用した授業実践】

例) 社会科の単元に活用できる記事を授業に使用する

- ・環境問題に関する記事を授業で使用する（5年）
- ・政治に関する記事を授業で使用する（6年）
- ・地域の記事を授業で使用する（3～5年）

④ 道徳における新聞の活用

【新聞記事を活用した授業実践】

例) 道徳に新聞への投稿や感動する話の記事を活用

- ・東日本大震災関連の記事を活用した道徳

- ・募金に関する記事を活用する
- ・心身に障害を持つ人に対するエピソードを取り扱った記事を活用する

⑤ 義援金の募集に新聞記事のパネルを活用する

【大震災の新聞記事をパネルに貼って活用する】

例) 東日本大震災の新聞記事を活用して被災地に絵本を贈る活動

- ・地震・津波の被害にあった記事を見て被害の大きさを実感する
- ・時系列的に新聞記事で被害の甚大さを実感する
- ・新聞記事から感じたことを表現し、被災地の人へ手紙を書く

IV 具体的な実践

1 新聞に慣れ親しむ活動

① ねらい

3・4学年で新聞に親しみ、新聞記事に興味をもって読むという活動を中心に実践を進めた。児童が、新聞の記事を読み込み、記事から興味をもったことや調べたいことについて感想をまとめることができるように新聞活用を図った。

② 活動

新聞を取っていない家庭もあり、まず新聞に興味をもって、どんな記事があるのかを知る活動から始めた（「新聞を読んでみよう」2時間）。そこから、新聞記事に興味をもち、新聞に書かれている事実をつかむという活動へと展開していった（「新聞に書かれていることをつかもう」2時間）。新聞記事から情報を得て、その事実について自分なりの考えをもつということ、本時のめあてとして学習を進めた（「新聞記事を読みこもう」3時間）。その際に、3年生には文章表現が難しい所もあり、辞書による語句調べや表現の難しい個所を教師が説明するというように個別の活動へと移っていった（「言葉を理解しよう」3時間）。さらに、新聞記事をスクラップにして、自分の考えを書くという活動を実践した（「記事を切ってはり、考えを書こう」3時間）。最後にまとめた考えを発表し、意見の交流を行った（「考えを発表し、感想を出し合おう」2時間）。

③ 成果

児童は、朝の会を利用して、日直が新聞記事を紹介し、その記事について考えを述べるという形式で発表を行った。その発表を全員が終えて、感想の交流を行ったところ、記事に対する興味がさまざま、どのような考えをもっているのかが分かってよかった、記事を読み方が分かってきたという意見があり、新聞に対する興味が高まった。また、自分の書いた作文を新聞へ投稿する活動にも興味を示し、発展的に新聞への関心が高まった。



2 国語の単元における活用

【4学年における実践】

- ① 単元名「アップとルーズで伝える」
- ② ねらい

写真と文章を対比させて、上手な説明の仕方を工夫するという学習課題をもとに、仕事リーフレットを作る。

③ 活動

説明文の伝え方、筆者の意図するところは何かをとらえる。そのとらえ方として、新聞記者による講話で、新聞記事の書き方、カメラマンによる写真の撮り方、文章に合わせた写真の掲載という手法を学んだ(写真の「アップ」と「ルーズ」の使い分け方、説明する上でのよさを確認する)。また、実際の新聞記事を通して、どのように文章化されるのかを学んだ(おでかけりゅうぼんでの号外の活用)。

④ 成果

新聞記者の方の話が具体的でわかりやすく、リーフレット作成に役に立った。写真の撮り方を意識するようになった。リーフレット作成がスムーズにできた。というように、子どもたちが、記者の話を実感し、国語の説明文と絡めて、学習に生かすことができた。おでかけりゅうぼんでの号外が子どもたちの励みになり、意欲をもって学習を進めることができた。



3 社会科の単元における活用

【6学年における実践】

① 単元名「ニュースから政治を調べよう」

② ねらい

ニュースを活用して、政治の働きと自分たちの生活がどのようにつながっているのかを考える。

③ 活動

新聞記事から自分たちの生活につながると考えられる記事を切り抜き、政治とどのようにつながるのかを予想する。切り抜いた記事を、全員でカテゴリ分けし、どのような記事が多くあるのかを視覚的にとらえる。

④ 成果

政治についての学習で、新聞から得られる情報が多くあり、記事を読み深めて、今の政治の動きを実感することができた。特に、増税については、賛成・反対の意見も出され、児童の政治に対する考え方も深めることができた。



4 道徳における活用

【6学年における実践】

① 教材名『大震災』を考える

② ねらい

- ・東日本大震災の恐ろしさとともに震災の教訓を生かし、防災・避難に役立てる
- ・震災から復興へと歩み始めた人々の努力を、新聞記事からとらえる

(主題3-(1)生命尊重、関連項目2-(2)思いやり)

③ 活動

津波の写真記事、津波によって打ち上げられた船の写真記事から、津波の恐ろしさ、すぐに避難しなければならないことをつかむ(導入)。地震・津波の恐ろしさをつかんだ後、恐ろしさを身近に感じられるように、ことわざ「地震・雷・火事・おやじ」を例に出し、ペア学習で、そのことわざの意味について考える。そこから、地震ウェビングを行い、なぜ自身が怖いのかを全体でとらえていく(展開)。地震・津波の怖さを実感するだけでなく、新聞記事の復興へと立ち上がる人々の手記や感想を読み、自分自身で感じたことを文章化し、学級全体で交流して、人々の復興への願いや生き抜く強さについて感じていく(終末)。

④ 成果

新聞の写真を活用して、具体的に地震・津波の被害状況や理解できた。また、復興への手記などを読み、当事者の思いが感じられ、児童の身近に怖さを感じさせることができた。児童の感想にも、「津波が来るたびに水と炎が押し寄せてすべてを流された記事が怖いということを実感できた」「つらいことがあったのに前向きにがんばっていることがすごい」「ボランティアの思いがすごいと思う」「一人一人の力が集まると大きな力になることがわかる」というように感じる事ができた。



5 東日本大震災の新聞記事パネルでの活用

【学校全体として被災地に絵本を贈る活動】

読書活動の一環として取り組んだ活動であったが、新聞記事を掲載することによって、被害の甚大さ、人々の苦しみを感じ、相手を思いやる気持ちが生じた。加えて、記事をじっくり読もうとする児童も多数おり、関心が非常に高まった。





V 成果と課題

1 成果

- 朝の会や帰りの会で新聞記事紹介することにより、記事の内容に興味をもち、話題が記事についての感想になることもあった。
- 5W1Hをもとに、文章の書き方がわかり、文章表現の方法が身についてきた。
- 新聞からたくさんの情報が得られることが理解でき、国語や社会の教科の中でも新聞記事の話題ができてくるようになった。
- 新聞はわからないことや新しい情報を教えてくれるものとして身近に感じることができるようになってきた。
- 壁新聞づくりに関して、人に伝えるということを意識するようになり、読む人にわかりやすく伝えるように書くことができた。

2 課題

- 記事に掲載された漢字が読めなかったり、語句の意味が理解できなかったり、記事の内容についての感想がもてない児童がおり、語彙の指導が必要である。
- 新聞を教材として使用する場合、教材研究がかなり必要であり、教科の中に新聞を取り入れるためのアイデアを出し合う必要がある。
- 新聞記事の内容には、思想・信条の面が色濃く出される内容もあり、取り扱いに注意しなければならない場合がある。
- 新聞活用において、実践例や先行研究等の情報の共有化が必要であり、学校への認知度を上げていかなければならない。

1. はじめに

本校では、平成 22、23 年度と NIE 実践校として、5・6 年生（高学年）を中心に、授業の教科とリンクしながら新聞を活用してきた。

校内研での「学習指導の工夫」という観点での重点指導項目の 7 つの視点の 1 つとして位置づけ、教科・領域等で年間を通して活用できるようにしてきた。

2. 児童の実態

NIE（新聞を活用した授業）の指定を受け、新聞に関する実態・意識調査を行った。

- ①「家で新聞を購読している」 はい（75%） いいえ（25%）
- ②「はい」と答えた人の読む頻度」について
 - a ほぼ毎日（週 5 回以上）<0%> b ときどき（週 3 回くらい）<35%>
 - c 少し（週 1 回くらい）<50%> d 全く<15%>

家庭では、新聞を購読しているのが 75%もあるのだが、意外に新聞に目を通さないことが多い児童が多いことがわかった。

- ③「世の中の出来事をどうやって知りますか？」
 - a テレビ（44%） b 新聞（28%） c インターネット（7%）
 - c 親子の会話（14%） d 友達との会話（7%）

情報を得るためのメディアとして、テレビが多く、その次に新聞と続く。

普段から落ち着いて新聞を読む時間や習慣もないことが聞いてみると分かった。また、大人の感覚と違い、大人ほど、新聞が有効なメディアの一つとして位置づけられていないのも分かった。

児童にとって、新聞が身近なメディアでありながら、日常的に活用されていない原因としては、新聞の良さや手にとって見る際の見方やどうすればいいのかが、よく分からない児童も多いということが話を聞いてみると実態としてわかった。

そこで、新聞のメディアとしての役割や見方を教えることが大切だと考え「新聞の良さ・特徴」

→「新聞に慣れ親しむ」→「新聞を読むことで何がわかり、どう役立つかなど」

→「興味を持って、自分なりの視点を持って考え、読み、書ける児童」になることをイメージしていき指導を行う計画を立てていった。

3. 実践の概要

	平成 22 年度
実施期間	9 月～3 月
教科・領域	国語、社会、総合、道徳
具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「メディアについて考えよう」（総合・社会） ・「新聞の見比べ（1 面記事に着目）」（総合・国語） ・「新聞の構成について」（総合・国語） ・「新聞の見比べ（2 社の新聞を比較）」（総合・国語） ・「新聞の見比べ（3 社の新聞を比較）地元紙と全国紙」（総合・国語） ～沖縄タイムス、琉球新報、朝日新聞～ ・「新聞の 1 面の特ちょうをさがそう」（総合・国語） ・「見出し作りをしよう」（総合・国語） ・「新聞の見出しを考えてみよう」① ②（総合・国語） ・「考えた新聞の見出しを発表しよう」（総合・国語） ・「新聞ワークシートを活用して」（道徳・社会・朝の会） ・「朝の 1 分間スピーチに活用」（朝の会） ・「担任による新聞紹介」（朝の会） ・「日本の産業、貿易について」（社会）

	平成23年度
実施期間	4月～3月
教科・領域	国語、社会、算数、総合、道徳
具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「身の周りのメディアについて」(総合・社会) ・「新聞ワークシートを活用して」(道徳・社会・朝の会) ・「沖縄戦・平和学習に活用」(総合・社会) ・「基地問題について考える」(総合・社会) ・「朝の1分間スピーチに活用」(朝の会) ・「担任による新聞紹介」(朝の会) ・「東日本大震災について考える」(人権の日、道徳) ・「新聞への投稿」(国語・総合・朝の会) ・「歴史新聞、新聞の書き方について」(国語・社会) ・「新聞記事から割合について考える」(算数) ・「2つの新聞を見比べる(地方紙と全国紙)」(総合) ・「スクラップ新聞 1分プレゼン」(国語・社会・総合・朝の会) ・「スクラップ新聞作り」(総合・国語・社会)

4. 実践事例の紹介

「1年目の実践について」

【新聞の見比べ(1面記事に着目)】



【新聞の見比べ ～2社の新聞を比較～】



新聞の1面記事に着目して、新聞を見比べてみる。
 両社の1面記事の共通点や掲載されている内容の共通点等を見比べた。
 こうやって、見比べるのも初めてのようで、真剣に集中して見比べていた。
 ある児童からは、2社の共通点の記事から、「この記事は、テレビでもよく放送されています。」など、1面記事は、その新聞社が読者(読み手)に一番知らせたいこと等、色々な意見が出た。
 見比べてみることで、これまで気づかなかった視点や新たな視点が見つかるいいきっかけとなった。

1週間分の新聞をそれぞれ、7日分を各グループに配布した。
 同じ日に発行された1日分の新聞「沖縄タイムス」「琉球新報」の2社を比較し、新聞の全体的な見比べを行った。
 その後は、気になった記事に付箋紙を貼り、気になった理由をそれぞれのグループで発表する。
 わからない漢字等は、辞典で調べたり、グループで読み方を教え合いながら、学習を行った。

【「新聞の見比べ ～3社の新聞を比較～」 ～沖縄タイムス、琉球新報、朝日新聞～】



【新聞の見出しを考えよう→考えた見出しを発表しよう】

3社の見比べを行った。
 10月11日(月)の1面を見比べると、沖縄タイムス、琉球新報の2社は、共通の1面ですが、朝日新聞は違いがあることに気づく。
 そこで、「違いは何ですか?」の問いに、沖縄、地元の新聞と全国版の新聞の1面の取り扱いについて考え、その違いについて気づくようになった。
 朝日の1面記事は、沖縄タイムスでは、総合の9面に取り扱いされていることにも気づき、地方紙、全国紙によって記事の紙面の配置に違いがあり、読み手に意識して作成されていることに気づき、新聞の特徴について、改めて考えるいい機会となった。



新聞の特徴を探し、新聞の構成について改めて見直した。また、その際に、5W1Hに気をつけながら記事を読む練習も行った。

新聞記事からその次に、教師が意図的に収集した新聞記事を児童に提示した。

「アジア選手権 福島選手 100M 優勝」の同じ出来事の記事(朝日と沖縄タイムス)を提示。2社の記事の見出しを隠したものを提示した。

同じ話題の記事でも記者(作り手)の伝えたい視点・意図によって見出しも違ってくことを学んだ。

記事の内容から「見出し」を考える授業へシフトしていった。

その流れは、下記のような流れで構成していった。

①新聞の1面の特ちょう探し→②新聞記事の見出し作り→③考えた見出しを発表



【読売ワークシート通信の活用】



読売新聞東京本社 教育支援部から発行されている「読売ワークシート通信」（小学校版）を活用し、道徳や家庭学習等に活用した。

1週間ごとに、タイムリーな話題の記事を読んで設問に答えるワークシートがメールで届く。ワークシートは、PDF ファイルで配信され、教科・領域別、学年別、内容の難易度別に配列されており、それぞれの学年、クラスでも気軽にできる活用の一つである。一枚で完結できる内容となっており、NIE の初期段階の取りかかりの一つとして、実際に新聞をスクラップする際に、どのような設問をするか等の参考になった。

【2年目の実践について】

【「基地問題について考える」】



総合・社会の授業で活用。総合的な学習の時間での「平和学習」の導入の授業として。

「基地問題」の背景について考えていく授業に新聞を切り口に考えていった。

「9万人超の集会」は、本校の読谷村で実施されたものであり、子ども達もその集会の実際には知っている子どもも少なくはない。

「写真から基地の実際を予測させ、どれくらいの基地があるか?」「基地があることに賛成か反対か」などと新聞や資料を組み合わせ考えていった。

授業の初めで、「基地に賛成に18人 反対9人」だったが、授業後には、「賛成7人 反対20人」となった。子ども達の感想にも、「基地問題について、深く考える機会になった。」「沖縄だけ、こんなに負担を背負うのはおかしい」など。

この授業後、新聞で基地問題について考え、基地問題に関する記事を読む児童も増えた。

【「東日本大震災について考える」～全児童対象に「人権の日」に活用～】



毎月第1週金曜日に実施される「人権の日」で活用。

「読売ワークシート通信」の記事と「朝日新聞社」「毎日新聞社」の震災後から記事を集めた冊子を資料として、「震災のことについて」「今、自分達にできることは何か?」などについて、考えていった。

写真を通して、被害にあった地域を目にすることで改めて、その震災の怖さやその被害の大きさが感じていた。テレビとは、違いじっくりと見ることが出来る新聞の利点。その他、記事から、それに負けずと頑張っている方々の様子を考えるいい機会となった。新聞に掲載される写真の影響力の大きさも改めて感じた瞬間だった。

【「新聞記事から割合について考える」(算数)】



各高校の「志願倍率」の記事をもとに、志願倍率は、どのようにして求められていくか。新聞記事をもとに考えていった。

実際の生活の場でも、こうやって使われているということ気付かせるために、実施した。子ども達も、算数で習ったことをもとに、考えていった。答えがでると「なるほど」と言う児童も多かった。

こういったように、新聞には、色々な記事が多彩に記載されているので、色々な教科に応用できると感じた。

【2つの新聞を見比べる(地方紙と全国紙)】



全国紙と地方紙の違いについて、同じ期日の新聞記事で比較した。

NIE の実践校であることで、全国紙と地元紙を同じ時期に読むことができる。そこで、今一度、その特性について、情報教育の視点も加味して、授業に取り入れた。

平成23年11月23日(水)の毎日新聞と沖縄タイムスの1面をB4の大きさで、それぞれ配布して、ペア同士で、共通点、相違点について調べていった。「同じ日の新聞なのに、1面の取り扱いが違うのは、なぜか?」について考えた。

またマスメディアが伝える情報には、全て製作者の意図が入っていることを確認していき、作り手(製作者)の視点をもって考えることができた。

【「スクラップ新聞作り」】



これまでのNIEの総まとめとして、クラス28人で取り組んだ「スクラップ新聞作り」。

＜作成の手順＞

- ①テーマ決め→②テーマに関する記事をスクラップ→③スクラップ新聞の構成イメージ作図
- ④スクラップした記事に対する考え、意見をノートにまとめる→⑤考え・意見の推敲
- ⑥あらかじめイメージした構成図をもとに模造紙にスクラップした記事を貼りつけていく。
- ⑦それぞれの記事の意見・考えを書く→⑧相手が読む際に見やすくなるように、色付や装飾を行う。
- ⑨最後に、誤字脱字等をチェックして完成。

NIEの総まとめの学習として作成した「スクラップ新聞作り」。大きな模造紙に、テーマに関する記事を集めるまでは、順調に進んだが、記事に対する意見・考えのノートに下書きする段階では、あえて厳しく「何を記事から感じ、どう思ったか」など、聞き直したりして、何度も読み直しさせたり、何を新聞にまとめていきたいかなどを行った。推敲をしていくうちに、まとめ方や考える視点、見る視点も上達していった。

スクラップ新聞を通して、一つのテーマに対して深く考える機会となった。作成の途中にも「こんな記事探してみよう」「この記事使ってみたら」など、子ども達同士で協力したり、話し合う場面が多々見られた。

「第1回沖縄県スクラップ新聞コンテスト」では、クラスから28人中、6名の受賞を頂いた。県教育長賞（1人）、優良賞（2人）、佳作（2人）、入選（1人）の計6人。



「県教育長賞 玉那覇佐弥」



「優良賞 久場 愛梨」



「優良賞 古堅 みずき」

【「スクラップ新聞 1分プレゼン」】



所定のワークシートに、「スクラップ新聞 1分プレゼン」で伝える情報を書きこむ。

- ①「この記事が伝えたいことは？」→②「その意味は？」→③「詳しく説明すると」
- ④「この記事を選んだ理由」→⑤「読んでみての自分の感想」

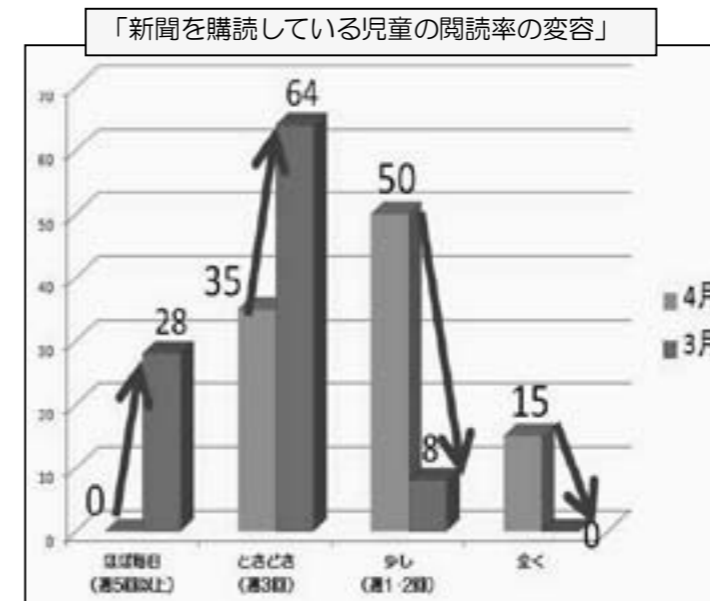
上記の内容を1分以内で発表する。ここで大事なのが、1分でプレゼンするには、記事の内容を短い言葉でまとめなくては、1分以内で発表することができなくなる。はじめは、新聞の記事を写し発表する児童もいたが、時間内に終わらないことを実感し、改善する児童も多数いた。また、時間ぴったりや30秒で発表する児童を模範に、内容を短い言葉でまとめようとする児童が増えてきた。

聞く側が時間も確認することができるように、大型テレビに時間を提示したり、発表する記事を拡大提示して相手に分かりやすく伝えることを意識させて発表を行った。

このプレゼンを通すことで、記事の内容をより深く読む児童、ポイントを短い言葉で発表できる児童が増えた。

5. 成果と課題

【成果】



- ・NIEを通して新聞を読む児童の割合が増えた。(左グラフより)
- ・新聞に対する意識や見方が変わった。
- ・新聞が身近なメディアと感じる児童が増えた。
- ・NIEを通して、記事をしっかりと読み、短い言葉でまとめようとする児童が増えた。
- ・教科、領域と意図的に活用することで、授業内容の深まりがあり、効果的だった。
- ・「スクラップ新聞」「1分間プレゼン」など、新聞を1つの教材として効果的に使うことで表現力、文章力が高まってきている。
- ・全国紙と地元紙を比較読みでき、勉強となった。
- ・教師もNIEを通して、児童と同様、新聞の見方活用の仕方等、学ぶことが多々あった。

【課題】

- ・初年度、実践にあたり、色々と見通しを立てつつも、上手いかわなく四苦八苦した。
- ・授業時数との兼ね合いもあり、普段から活用する教師の見通しが大事となる。
- ・全校体制で活用という段階までいくことができなかった。
- ・新聞の部数の確保。低学年（1・2年）中学年（3・4年）高学年（5・6年）に1部ずつの計3部程度あると、より活用の幅が広がるのではと感じた。

平成23年度 漢那小学校 NIE実践報告

1. NIE実践校応募の動機

本校は平成20年度～22年度、沖縄県教育委員会指定研究校「開かれた学校づくり」の領域で「世界へ夢が広がる学校の創造」の研究テーマで様々な実践を通して、子どもたち一人一人が夢に向かってチャレンジしている。

具体的な取り組みでは「新聞・テレビ・インターネット」の最新情報から、世界に目を向け、世界の今の出来事や、各地の話題を見つけ、情報を整理し、まとめ、発表している。

また、教職員研修では「県内新聞を活用した学級通信の書き方、言語活動における文章表現について」など新聞を活用した研修に取り組んでいる。

さらに、学校の行事等、明るい話題が新聞に掲載できるよう「取材依頼や電話連絡による連絡」等、明るい話題が新聞記事になるよう努めている。学校の話題が保護者や地域でも話題になり、信頼される学校づくり、地域に開かれた学校づくりに寄与している。

このように、本校は新聞を活用した取り組みが日々実践されている。今回NIE事業を活用し、新聞を活用した授業実践、新聞を活用した学校経営の充実に展開していきます。

2010年度NIE実践校を希望します。

2. テーマ設定

漢那小学校テーマ

子どもたち一人一人を輝かせ、世界へ夢が広がる開かれた学校の創造
～夢に向かってチャレンジする児童の育成～

NIE実践テーマ

世界へ夢が広がる新聞活用

3. 実践内容

(1) 平成22年度の実践

サブテーマ

～新聞に親しもう～

新聞に親しむ環境作り

①新聞コーナーの設置

- ・1階多目的ホールの新聞コーナー
- ・各学年新聞コーナーの設置（各学年廊下）

1階多目的ホールの新聞コーナー 9月



5年廊下新聞コーナー 10月



②掲示板の活用

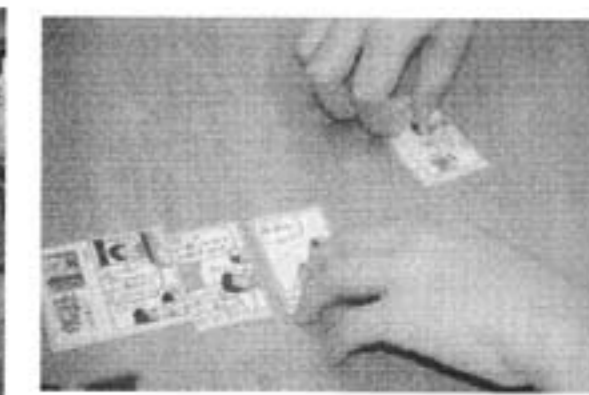
- ・1階多目的ホール掲示板の活用

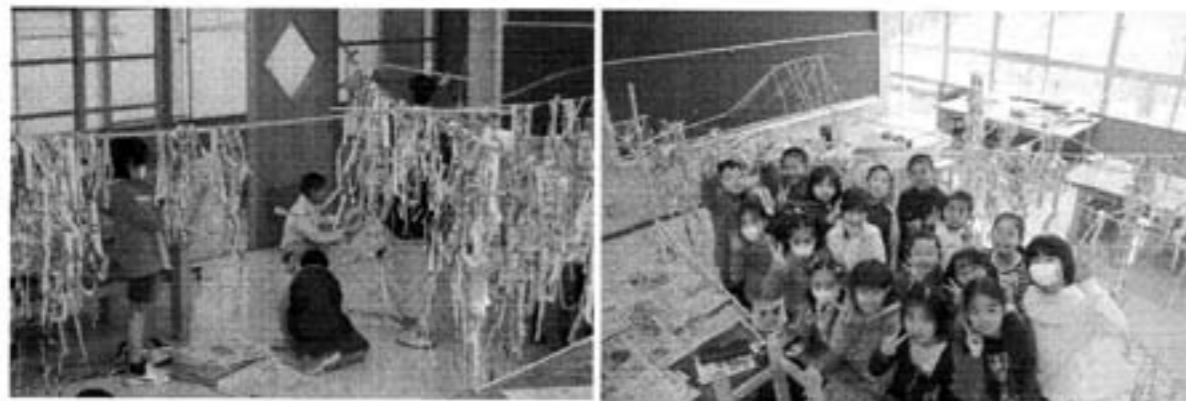


- ・2階放送室横掲示板の活用



③授業での新聞活用





④地域へ開かれた学校 学校の取組を新聞を通して伝える



4月17日掲載

10月9日掲載

4. 成果と課題

成果

- 児童が新聞に親しみ、いろいろな情報を自ら探すようになった。
- 新聞記事や写真等から疑問を見つけ、父母や先生方に質問をするようになった。
- 理科では理科新聞から季節のイメージつかみ、この花が咲くのは何月ぐらい、この鳥の写真が載るのは何月ぐらいとよく話題になり、身の回りから季節の移り変わりに対し興味を持つ児童が増えた。
- 先生方が新聞から教材を見つけ活用したり、宿題として活用したりすることがスムーズにできるようになった。
- 学校情報を新聞に積極的に載せることによって、地域の方々の学校への関心がさらに深まった。

課題

- 児童の表現力は深まってきたが、言語能力（話す・文章を書く）の向上についてはまだまだ取り組みが必要である。
- 教科と関連させた教材研究と宿題の工夫・開発

テーマ 「新聞に親しみ、言語活動の充実を図る実践について」
～日常的な活用、授業での活用、家庭での活用を通して～

1. はじめに

本校はH20～H21において実践校として6学年での実践を行ってきた。この2年間では「新聞に親しみ、新聞から様々な社会の出来事について興味・関心を持つこと」をねらいとしてきた。2年間の実践を通して、子供たちが徐々に新聞に親しみを持つようになり、新聞が身近なものとなってきたと感じた。

そして、H22～23年度は推進校に指定され4～6年生を中心に取り組んできた。この2年間は新聞活用を広げていくことを重視して実践を行い、6年生を中心に実践を広げてきた。6年生においては新聞を活用した授業を通して、言語活動を充実させることを目的とした。4、5年生では「新聞に親しみ、自分の考えを持つこと」を目的とした。また、本校での校内研修のサブテーマにおいても「言語活動を充実した指導」が設定されている。そのため、NIEの実践も校内研修と関連づけながら実践してきた。そのため教師は日常生活、授業、家庭でどのような新聞活用ができるのか、そして、NIE活動を通してどのように言語活動を充実させていくことができるのか、という視点を持ちながら実践を試みた。

2. NIE高めたい力

本校の校内研修のテーマの中心である「聞く力・話す力を高める言語活動の指導」と関連付けてNIE活動を実践した。実践を通して高めたい力を以下に述べる。

<6年生>

- (1) 自分の思いや考えを分かりやすく表現する力
 - ・記事から読み取ったことを5W1Hを意識しながらまとめる。(表現力)
 - ・記事について自分の考え・意見を持つ(思考力)
 - ・話し合いの中で相手の意見と自分の意見を比べながら聞き、話し合いを通してさらに自分の考えを深める(思考力、表現力、判断力)
- (2) 広い視野に立って考える力
 - ・記事について自分の思いや考えを伝え合う活動を通して、コミュニケーション能力を高めると共に社会的事象を多面的に考える力

<4、5年生>

- (1) 自分の考えを持ち、表現する力
- (2) 相手の意見をしっかり聞く力

3. 実践の概要

学年	教科・領域	実践内容
4年	・国語 ・社会科 総合的な学習の時間	・国語での活用 単元名「アップとルーズ」で伝えよう ・新聞作りでの活用
5年	・国語 ・社会科 総合的な学習の時間	・社会科で写真、記事を活用 ・国語での活用「新聞を読もう」 ・1分間スピーチ ・朝の会などでの紹介 ・出前記者による新聞の書き方講座

6年	・国語 ・社会 ・算数 ・図工 ・体育 総合的な学習の時間 日常活動：スピーチ ファミリーフォーカス	・国語：「新聞の書き方、記事のまとめ方」 ・社会：政治、国際、環境、歴史 ・算数：割合 ・体育：エイサー指導で写真を活用、スポーツ記事、写真の活用 ・記事について親子で話し合い
----	---	--

4. 実践をするにあたっての工夫

(1) 教師間の工夫

- ・各学年とも学年で共通理解を図り、活動を進めていくことを心がけた。
- ・教師間で活用方法、効果などの情報交換を行った。
- ・各学級に新聞を配布する新聞係を設けた。新聞はクラス順で配布した。
- ・活用方法は学年で教材研究をした。

(2) 新聞に関心を持たせる工夫

- ・1分間スピーチの内容を社会的な出来事をテーマにした。
- ・朝の会や授業などで新聞記事を紹介した。
- ・児童が関心ある記事を自由に収集させ、グループや全体で紹介した。
- ・児童の作文等を投稿し意欲を高めた。
- ・4コマ漫画を活用した。
- ・新聞コンクール等に出品した。
- ・常に児童が新聞を開けるよう教室に新聞を置いたり、また掲示板に新聞を掲示した（りゅうポン、ワラビー）

(3) 話し合い活動を充実させるための工夫

- ・1分間スピーチをする際に話し手・聞き手共に自分の感想・意見を持たせる。
- ・日頃から教師や児童が紹介した記事について話し合いをさせる。（2，3分程度でもよい）
- ・話し合いでどんな意見が出たのかを発表させ、意見が多くでたグループ、考えが深い意見に対して褒めてあげる。
- ・日頃から自分の物事に対して自分の考えを持つよう指導する。

5. 実践の実際

日常での活用

●1分間スピーチ：～伝え合う力を育てる～（言語活動の力）

- ・関心のある記事を収集し5W1Hを意識しながら記事をまとめスピーチを行う。
話し手・・・聞き取りやすいように話す
聞き手・・・メモを取りながら聞く。
教師・・・スピーチの内容を質問する。
全体・・・記事を読んでいるグループや全体で感想・意見交換をする。

<成果>話す態度、聞く態度がしっかり身に付くようになった。特に聞き手はメモを取るためにしっかり聞くようになった。話し合いの場を持つことで自分の考えを持つことができるようになった。

授業での実践

(1) 総合的な学習：～伝え合う力を育てる～（言語活動の力）

①関心ある記事をまとめ発表し合い、意見交換をする。

関心ある記事を収集し、まとめる。選ぶときにはまず、新聞の見出しを全部読んだ後に、記事を探す。グループ内でお互いの記事を発表し合い、その後、題材を一つ選び、グループで話し合い活動を行う。その際、必ず一人一人意見を述べることにした。最後に、グループでの話し合った結果を全体で発表する。



関心ある記事を選ぶ



記事をもとに話し合い活動



まとめた記事

②スクラップ新聞～社会事象に対して関心を持ち、考えを深める～

テーマを各自で決め、記事を収集し、まとめる。収集していく作業を通して、現在世の中に起きているさまざま出来事について関心を持つようになった。また、収集した記事の中でどの記事を載せるのか考えたり、レイアウト、見出しを自分なりに考える活動を通して「考える力」も身につけてきた。



(2) 社会科：社会的事象に対して関心を持ち、考えを深めていく力

- ・社会科の単元「日本とつながりのある国々」のまとめとして、グループで調べたい国を決める。調べたいことをグループで話し合いインターネット、図書館、新聞を使って調べる。調べたことについて話し合いをし新聞記事を作成してく。活動を通して、情報収集力が身につけてきた。また、作成の段階で話し合いを通して、自分の考えをより深めることができた。最後は発表会を行った。

(3) 国語：単元名「アップとルーズで伝える」

- ・新聞に掲載されている写真を見て、気づいたことを発表した。単元を進めるにあたって興味・関心を持たせることができた。また、普段子供たちがなかなか新聞を開く機会なかったので、新聞活用は親しませる良い機会となった。



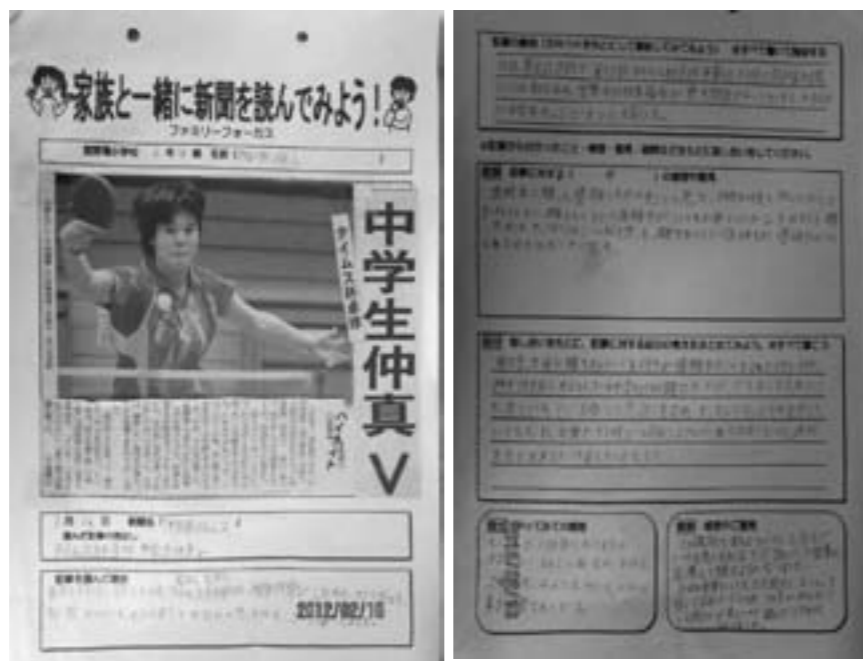
家庭での実践

- ファミリーフォーカス～社会的事象に対して関心を持ち、考えを深めていく力～
～親子のコミュニケーションの場～

・親子で関心ある記事を選ぶ。児童が記事をまとめ、親子で記事について話し合う。月に1～2回のペースで実施した。この活動を通して児童以上に親からの反響が大変大きかった。親子のコミュニケーションの良いきっかけとなった。

保護者からのコメント

- ・ただ読んでいた新聞を子供が深く考えて読むようになった。子供の成長が見れてとても良かった。
- ・新聞が身近な物になってきていると感じました。
- ・なかなか一緒に意見を言う機会がないので、それができてとても良かった。子供の成長を感じることができた。
- ・子供の視点からの意見が聞けてとても良かった。
- ・見たい、知りたいという子供の好奇心を育てるために新聞はとてもいいと思います。



環境づくり

- ・児童が身近に新聞を見る事ができるように図書館司書とも連携し、図書館に新聞コーナーを設置した。また教師向けの新聞活用方法の資料も掲示した。さらに、NIE 掲示板を設置した。6年生はNIE 係を置き、掲示板に毎週を掲示したり、各学級の作品等を掲示した。



図書館の新聞コーナー

NIE 掲示板

6. 成果と課題

- 4年間継続した指導により、さまざまな新聞活用方法を習得することができ、子供、教師にとって新聞が大変身近なものになった。
- 年間を通して新聞を活用した1分間スピーチをすることにより、記事をまとめることが上達した。また聞き手も目的意識を持って聞くことができるようになった。
- 子供達が社会事象に関心を持つようになり、また、事象について自分の考えを持つようになった。
- 新聞活用を通して子供達の言語能力が高まった。その中でも話し合い活動では子供達が自分の考えをもち、お互いで考えを深め合うことができた。言語活動を充実させる手段として、新聞活用が大変有効であること実感することができた。
- ファミリーフォーカスの活用を通して、親子のコミュニケーションが増え、また親にとって子供の成長を実感できた。
- 学年で取り組むことで、学年全体に成果が見られた。
- 記事の内容をまとめることに抵抗感がある児童への指導を考えていく必要がある。
- 必要な情報を児童のみに取捨選択させるのは難しいので、教師が支援しなければならない。そのため、担任だけでは支援が困難である。
- 新聞を活用した授業展開をするための時間の確保が難しい。そのため、教材研究を綿密に行い、計画を立てなければならない。
- 新聞活用を学校全体に広げていくためには、研修が必要不可欠である。その研修時間を確保するためには、学校全体でのサポートが必要である。(校内研とのタイアップ、校務分掌への位置付け等)

7. おわりに

四年間の実践を通して、子供が新聞を身近に感じるようになり、社会に関心を持つようになったことが大きな成果である。また、教師にとってもさまざまな活用方法を知ることができ、新聞がより身近な教材として実感することができたことも大変大きな成果である。そして、何よりも大きな成果は、「言語活動の充実」が現在の教育で叫ばれる中で、新聞活用がその課題を解決する一つの手段として大きな役割を果たしているということを実感できたことである。今後はさらに「授業でどのように活用していくのか」ということが課題である。新聞記事をそのまま児童に配布しても、授業に活用することはできない。新聞はあくまでも素材であり、授業で有効に活用するためには新聞を「教材化」することが必要である。

実践を通して教材化することで授業で有効活用することができた。小学校において社会をやる第一歩として、また言語活動を充実させる、さらには親子のコミュニケーションの手段として新聞活用が非常に効果を発揮することを体験した。4年間の実践を通して確かな成果が得られたことを実感している。

社会性を育み、読解力や表現力の向上を目指して

～北中城村立北中城小学校のNIEの取り組み～

北中城村立北中城小学校

教諭 甲斐 崇

1 はじめに

北中城小学校では、2008年度からNIE (Newspaper in Education) の実践指定校として認定を受け、6年生を中心に授業や日常活動に新聞を活用してきた。さらに2010年度から全国奨励校の実践指定校に認定され、高学年から全学年への実践を進めつつある。本校の校内研のテーマであった「伝え合う力を高めるための工夫」にも重ねて実践を行ない、子どもたちに豊かな言語能力、読解力、表現力等をつけることを目的として活動を行ってきた。

2 NIEへの取り組みの方針

(1) 過去2年間<2008年度・2009年度>の取り組みについて

2008年度・2009年度の実践にあたり、実態把握アンケートを実施したところ、新聞を購読していない家庭が2～3割いること、また新聞が子どもたちのふだんの生活に関わりがない実態が明らかになった。また、そのような状況で新聞を活用して授業を行なうことに、難しさや抵抗感を持つ子どもも見られた。そこで二年目以降は活用する前に、子どもたちにとっては縁遠く難しい新聞に慣れさせる必要があると考え、①新聞に慣れ親しむ活動、②新聞の活用に向けた活動、③新聞の教科領域等での活用、という流れで段階的に新聞に慣れ親しんでいくための活動を計画して行った。<詳細は2009年度NIE実践報告書に掲載>

(2) 高学年での活用から全学年での活用へ

2009年度の全国奨励校での実践指定校の認定を受け、これまでの6年生での実践をもとにして、主に高学年(5・6年生)での新聞活用を進め、2011年度にはさらに全学年で進めていくことになった。高学年では、日常的な新聞活用を通して、①社会の出来事に興味関心を持つこと、②読む力をつけること、③記事の書き方をもとにした書く力、まとめる力をつけること、を目指した活動を行なうこととした。

(3) 新聞の活用方法について

以下のような方法で新聞を活用したが、特に新聞の使い方や活用方法について限定せず、自由に使ってもよいことを共通確認した。

- ①新聞の構成、仕組みなど新聞そのものを学ぶ手立てとする。
- ②新聞記事をもとに国内、国外、地域など社会の出来事を知る手立てとする。
- ③学習内容に関連させたり、より深く調べたりする手立ての一つとする。
- ④各教科・領域等で行なう「新聞作り」「作文」等のお手本とする。
- ⑤記事をもとに社会のことを考え、それを自分のこととしてとらえさせる手立てとする。

(4) 新聞の購読方法について

新聞の購読については、全国紙・県内紙の6紙が、それぞれ4ヶ月間配達されるという枠組みの中、学校行事や3学期制であること等を考慮しつつ、できるだけ分散して一年間新聞が継続して使えるようにすること、本校での新聞学習のピークである二学期に多めに割り振ることなどを念頭に工夫した。

新聞名	配達月											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
朝日新聞		○				○	○	○				
毎日新聞			○				○	○			○	
読売新聞		○				○		○	○			
日経新聞			○		○				○	○		
沖縄タイムス			○	○			○				○	
琉球新報		○				○		○		○		

(5) 新聞の取り扱いについて

2010年度までは、中心になって活用する学年の広場に新聞を保管し、必要な時に必要な学年が使うスタイルであった。当該学年にとっては使いやすかったが、他の学年や全体としては借りづらく、新聞が学校に毎日届いていることすら分からない状態であった。そのため2011年度からは、メディアセンターとしての図書館の機能を充実させる目的もふまえ、図書館前の広場にNIEコーナーを設置し、毎日配達される新聞を広げて閲覧できるように工夫した。また、展示が終わった新聞は、数日分は新聞掛に置き、それ以降は新聞の種類ごとにかごにまとめて保管するようにした。NIEコーナーには、こども新聞や子ども向けや教師向けのNIE関連資料も置いた。壁面には児童の作った新聞等も掲示し、子どもたちの興味関心を引き、児童や教師が自ら学習ができるコーナー作りに努めた。これらの活動は図書館司書の協力を得て行なうことができた。

また、新聞の取り扱いについては以下のようにした。

- ・全学年児童、教師が閲覧可能、来校した保護者も閲覧可能。
- ・かごにストックされている新聞は自由に教室に持ち込み、授業に活用してよい。
- ・必要な記事や写真は切り抜きも自由に行なってよい。ただし、原則として切り抜いた新聞は元に戻さない。
- ・NIEコーナーの新聞や作品の展示、管理は、図書館司書とNIE担当教師が行ない、必要に応じて委員会の児童がお手伝いする。



<図書館前NIEコーナー>

3 2010年度・2011年度のNIEの取り組みの概要

(1) 各学年におけるNIEに関連する取り組みの実施

- ・2010年度の高学年での新聞活用、2011年度の高学年での新聞活用は以下の通り。

学年	教科	内容
1年	国語	・スクラップコンテストへの授業での取り組み ※アドバイザーとのTT授業の実施
2年	国語 生活科	・新聞に慣れ親しむ活動「何て言っているんだろう」の実施 ・スクラップコンテストへの授業での取り組み ※アドバイザーとのTT授業の実施
3年	国語 総合	・新聞に慣れ親しむ活動「記事をバラバラにしてみよう」等の実施 ・新聞をもとに、新聞の仕組みや特徴を学ぶ授業の実施 ※アドバイザーとのTT授業の実施 ・総合的な学習の時間における地域学習のまとめとしての新聞づくり
4年	国語 社会 総合	・光村図書「新聞を作ろう」での新聞の学習 ・社会見学（浄水場など）で学習したことをまとめる見学新聞づくり ・読売ワークシート通信を活用した授業 ・スクラップコンテストへの授業での取り組み ※アドバイザーとのTT授業の実施 ・総合的な学習の時間における福祉学習のまとめとしての新聞づくり
5年	国語 社会 総合	・新聞を学ぶ学習（段階的に新聞に慣れ親しむ活動） ・総合的な学習の時間における環境学習の調べ学習及び新聞づくり、切り抜き新聞づくり ・新聞スクラップを利用したスピーチの実施 ・宿泊学習など体験したことを伝える新聞づくり ・ファミリーフォーカス ・出前記者講座の実施 ・実際の新聞への挑戦（投稿、こども新聞） ・食料自給に関する授業 ・スクラップコンテストへの授業での取り組み ※アドバイザーとのTT授業の実施
6年	国語 社会 総合 理科	・新聞を学ぶ学習（段階的に新聞に慣れ親しむ活動） ・総合的な学習の時間におけるキャリア教育（職業学習）の調べ学習及び新聞づくり、切り抜き新聞づくり ・光村「平和のとりにてを守る」における新聞を活用した意見文の作成、学習のまとめとしての切り抜き新聞づくり ・ウチナーンチュ大会のイベントのまとめとしての切り抜き新聞づくり ・行事における作文づくり、新聞への投稿、実際の新聞への挑戦 ・一緒に読もう新聞コンクール、スクラップコンテスト、新聞感想文等のコンクールへの授業での取り組み ・理科「太陽と月の形」、「大地のつくりと変化」における新聞活用

(2) 取り組みの実際

①学習のまとめとしての新聞づくり<2010年・2011年>

2010年度から5年生でも主に総合的な学習の時間を中心に、新聞を活用した授業を進めた。学習のまとめとしての新聞づくりにもっていくために、1学期はこれまで本校で行ってきた「何て言っているんだろう」「記事をバラバラにしよう」など段階的に新聞に慣れ親しむ活動から始めていった。2学期には国語の学習とも連動して出前記者講座なども行い、新聞づくりに向けての基礎力を高めた上で、国語科や環境学習でのまとめとしての新聞づくりに挑戦した。国語科での新聞づくりでは本物の新聞を参考にしつつ、「誰に」「何のために」伝えるのかという相手意識や目的意識をしっかり持たせ、宿泊学習や運動会など体験したことや、学校の自慢や問題点について、読み手のニーズも考えながら取材を行ない、記事の書き方を工夫し、コンピュータでまとめた。また、新聞を「作って終わり」にしないために、発信相手である4年生等に新聞をもとにした発表を行ない、その後新聞を読んでもらい感想を聞く場を設けた。昨年度作成した新聞は、スズキ教育ソフト「キューブ活用コンテスト」において『活用賞』を受賞することができた。

②新聞スクラップコンテストなどへの全学年での取り組み

2011年度は「一緒に読もう！新聞コンクール」などのコンテストにも学校として積極的に取り組んだ。「第1回新聞スクラップコンテスト」へは、全学年で取り組みを行なった。低学年は新聞に初めてふれる児童も多いことから、1年生は教師が選んだ写真を中心に記事の内容を読み取り感想を書かせることができた。2年生からは新聞をすべてめぐりながら記事を探す時間をとり、簡単に新聞の仕組みにもふれながら、新聞の醍醐味を味わわせることができた。高学年ではお手本や模範作品を紹介しながらイメージを持たせ、記事の感想にとどまらず、自分の意見や提案を考えさせるなど、発達段階に応じた工夫を行なうことができた。コンテストには659点の作品を出品することができ、小学校では唯一『学校賞』を受賞し、54名の入賞者を出すことができた。



<1月21日付沖縄タイムス・2月5日付新報りゅうPONに掲載された新聞スクラップの取り組み>

(3) 校内研修<ワークショップ形式>の実施、NIE研修会への参加

校内でNIEの活動を進めるために、夏季校内研修においてNIEに関するワークショップ形式の研修を行なった。NIEの意義に関する講話を聞き、新聞に慣れ親しむ活動を体験したことで、これまで新聞を活用した授業を経験したことのない先生方にも授業での活用イメージを持たせることができた。また、NIEに関する新聞社主催の教師向け研修会やNIEフォーラムでの授業参観・ワークショップにも積極的に参加してもらうことができた。



<ワークショップの様子>

4 成果と課題

(1) 成果

- ・投稿、コンクールなどでの入選、学校賞、紙面での実践紹介などが対外的にも認知され、子どもたちと新聞、そして社会との距離が縮まった。学年の発達段階に応じた新聞スクラップへの取り組みも含め、学校全体として新聞活用の底上げを図ることができた。
- ・6年生は2年間継続してNIEの活動に取り組めたことで、コンテストへ多数入賞するなど、新聞にまとめたり、自分の考えを書き表したりすることが上手になった子が多くなった。
- ・新聞を活用する環境の充実により、全学年が新聞を活用しやすくなった。

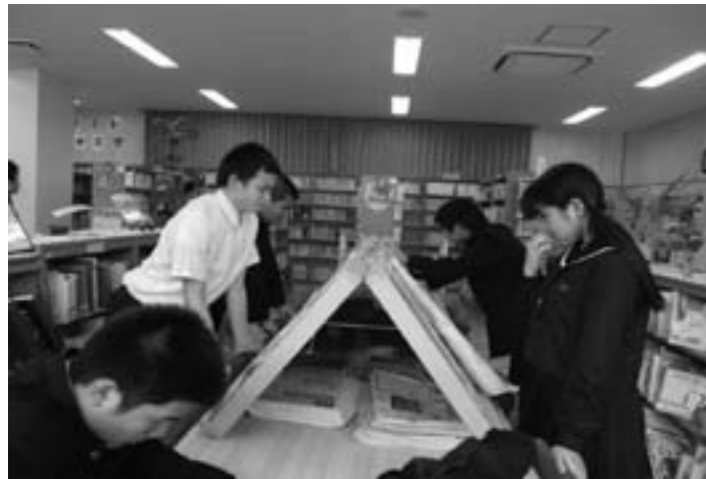
(2) 課題

- ・校務分掌、学校組織としてのNIEの位置づけを図りたい。校長のリーダーシップも重要。
- ・新聞活用に向けた教員向けの研修の定例化、新聞に慣れ親しむ授業の確保が必要。また各教科における年間計画に新聞活用、新聞づくりについての関連づけが必要。→現在作成中

読谷村立読谷中学校
実践：第3学年

本校は平成22年度から2年間、日本新聞協会指定実践校として、活動してきました。NIEの実践は、右の表の通りです。

①新聞に興味関心を持たせることをはじめに、学級では、朝の学活の時に日直が本日のNEWSコーナーを設けて発表しています。琉球新報の連載で、本校卒業生の竹井大地さんのアフリカ自転車の旅の記事を国際理解と関連し、学級で読んで、アフリカとのメール交換など竹井さんとの交流も図りました。また、休み時間には、新聞コーナーを新設したことで、新聞を読むに図書室へ足を運ぶ生徒が増えました。
《新聞を読む生徒達》



実践の流れ

- ①新聞に興味関心を持たせる。
 - ・卒業生の竹井さんのアフリカ紀行を全生徒で閲覧
 - ・図書室での閲覧コーナーの設置
- ②スクラップレポートの実施
- ③新聞のできるまでを講習
 - ・琉球新報社 松永記者
- ④校舎移転の新聞作り
- ⑤両新聞への特集投稿
- ⑥授業の実践・・・資料
- ⑦生徒会放送委員会 NIE 番組実施

②選択社会科の時間では、各自が切り抜いてきた新聞記事から内容を読みとり、何を学ぶかを中心にはじめ、新聞記事を自由に切り抜き、感想を書いて掲示発表を行った。友だちの記事から他人の見方や考え方を読み取り、自分自身の意見をまとめることを実践していきながら、社会に対する目を育成しました。同時に読む・考える・自分の意見を表現する言語活動とつながりました。

③新聞に興味を持ちはじめた生徒達に、校舎移転というイベントを手作り新聞にしていく取組みの中で、琉球新報社の松永記者より、作成のポイントや写真撮影の仕方などの講話をしていただきました。

④60年いた校舎敷地の移転という節目に、思い出の場所の写真撮影を行い、そのまつわる話など記事としてまとめました。

⑤沖縄タイムスワラビー、琉球新報りゅうPONへの特集号の取組み両新聞社より、記者が来校し、生徒と一緒に取材活動や写真撮影、記事の書き方を実践しながら、旧校舎から新校舎への変遷、でき事、エピソードなど読者も楽しめる内容となった。

ードなど読者も楽しめる内容となった。

⑥授業実践（後頁参照）

主に3学年の選択の時間や社会科の時間を通して、1年目は、新聞記事から読みとり、何を学ぶかを中心にはじめ、新聞記事を自由に切り抜き、感想を書いて掲示発表を行った。友だちの記事から他人の見方や考え方を読み取り、自分自身の意見をまとめることを実践していきながら、社会に対する目を育成しました。同時に読む・考える・自分の意見を表現する言語活動とつながりました。



⑦ 夏のNIE研修会で、豊見城中学校の実践の中に生徒会放送委員会の取組みがあつて、すぐに取り組めると感じ、早速2学期から毎週水曜日の担当に持ちかけ、番組化しました。委員も新聞記事を持ちより、内容によってコメンテーターの先生を交渉し、事前打ち合わせをしているかのように、マイクの前で聴きたいことや、記事にまつわる先生の話の給食時間に校内で放送し、好評も上々です。

特に那覇マラソンや沖縄マラソンの時には出場の先生方から記事の内容を説明してもらったり、入試志願状況のときには、進路担当の先生が1年生にもわかりやすくコメントしてもらいました。

その他には、保健関係や世界情勢、沖縄の時事についても話題作りに新聞を大いに活用しました。

NIE 実践授業学習指導案

平成23年〇〇月〇〇日(〇)校時
 読谷村立読谷中学校 3年 組
 授業者: 宮城 秀輝

1. 研究テーマとの関連

資料活用を通して、社会的事象を多面的・多角的に考察し、表現する力(言語活動)の育成。

2. 本時の展開

(1)教材名

NIE 新聞記事で友だちとのコミュニケーション作りをやろう。

(2)本時のねらい

各自の興味を持った新聞記事を読み、理解して友だちにその内容を伝える。言語活動の基本的な読む、話す、聞くことを通して、人間関係づくりや表現する力を図る。

(3)授業仮設

読んだ記事の内容を理解し、友だちに話す事によって、表現する力を豊かにし、聞く側もより知識を深めることができるだろう。

(4)本時の展開

流れ	学習内容・学習活動	指導の工夫・留意点	評価の観点・備考
はじめ (10)	最近の記事を紹介する。 情報を得た人達の生活はどう変化するか。	普段の人々は新聞の記事で、どのように人間関係を築いているか。 情報化社会での過ごし方について	教科書の情報化社会について関連 意欲関心態度
なかみ (35)	各自の持ってきた新聞記事をまとめる。 ①友だちに伝えあう。 聞いた内容にタイトルをつけてあげる。 ②友だちに伝えあう。 聞いた内容にタイトルをつけてあげる。	各自の記事を要約する際の留意点。相手にわかりやすいようにまとめさせる。 聞いた側はその内容に記事らしくタイトルをつけてあげる	確かな情報を伝える。 技能表現 聞いた内容を整理する。 知識理解
おわり (5)	本時のふりかえり、人との関わりについて 発表したみんなへ称賛 まとめ	話す工夫し、伝えることについてポイントを確認する。 記事を実生活の場面においてその情報をどう活用するか。	思考判断

(5) 評価

新聞記事を通して、友だちとの話題が盛り上がった。
 新聞記事を読み理解し、人に伝える技法を学んだ。
 聞いた情報を自分自身の実生活でどう生かしていくか判断ができた。

NIE

月 日

本時の目標

自分の記事の内容の(要点)まとめ

話してくれた友だち

氏名.....

どんな内容?

タイトルつけるなら.....。

話してくれた友だち

氏名.....

どんな内容?

タイトルつけるなら.....。

今日の授業は.....。学んだことは.....。

読谷中学校 年 組 番 氏名.....

＜成果と課題＞

クラスの6割くらいの生徒の家庭が新聞を愛読している状況であったので、このNIE実践はうまくいくのか不安のままスタートしました。読谷中学校は昨年度、他の学校では例にない校舎敷地移転、大引越えを経験しました。読谷中学校の歴史的場面を新聞にまとめたり、2社の新聞に掲載されたりと、新聞を身近に感じることができた。同時に読む力・読んで考える力・友だちに伝える力等(言語活動に位置付け)、すべて実際の社会生活で行われている実践活動(キャリア教育:情報集能力・人間関係づくりと位置付け)をNIE実践校のおかげでスムーズにできました。

今後の課題として、一部の学年や教科にとらわれず、どの教科領域でもどの学年でも、取り組めるように全教師が意識を高揚し、身近な記事(材料)を生かし、授業実践に取り組みたいと感じています。

2年間の取り組みは大変意義の多い機会となりました。両新聞社・新聞協会に感謝申し上げます。

教科カリキュラムに位置づけた切り抜き新聞

中学校社会科学習において、年間指導計画上で負担にならないよう計画されたNIE切り抜き新聞作り。

I 本実践の特徴

- 1 新聞の切り抜き記事を資料として使うことにより、カリキュラム上負担をかけずに手軽に学習新聞が作れる。
 - ① 資料収集としての新聞の切り抜きを夏季休業中の課題と位置づけることで、授業時数に余裕ができる。
 - ② 新聞切り抜きをそのまま紙面で使うことで、作業的な時間を短縮し、その分資料の選考・編集場面に時間を使うことができる。
- 2 調べ学習の資料として新聞を使うことで、有効な資料分析ができる。
 - ① ネットと比較して情報の出所がしっかりしており、安心して教材として活用できる。
 - ② 集めた情報の整理・分析が手軽で、情報の内容比較なども容易になる。
 - ③ 新聞紙面の構成が手軽で、手書きで紙面を作るよりも短時間で完成させられる。

II 実践の経過

1 資料収集

- ① 2学年の社会科学オリエンテーションにおいて、新聞購読率を調査、およそ70%の家庭が購読している実状を把握。近所の祖父母宅で新聞を読むことが出来る生徒を含めると90%を超える。夏休みに新聞を利用した課題があることを予告し、出来る家庭は4月から古新聞を確保することをすすめた。
- ② 夏休みの宿題として「新聞紙面から世界のニュース(スポーツ・芸能を除く)の切り抜きを1人最低20枚集めてクリアファイルで提出する」課題を与えた。枚数が多いほど、課題としての評価は加算されることとした。
- ③ 新聞を購読していない生徒には、学校で指定校として配布されている新聞と教員が家庭から持ち寄った新聞とで対応した。夏休み中に特定の日を設け、新聞切り抜き日とした。事前に申し込んだ生徒の3名のうち、1名のみが参加して切り抜きを行った。
- ④ 課題として「世界のニュース」という大きな枠で提示したため、多くの生徒にとって取り組みやすく、普段は課題提出率の低い生徒も提出することが出来た(最終

提出率98%（未提出は不登校生が多い）。中には親が切り抜いた生徒もいた（はっきり確認が取れているのが2名）。

2 テーマ設定

① これからの授業の内容を伝え、評価の基準を明確にする。以下の項目が生徒に示した内容

- A 事前に読者に伝えたい内容をはっきりと決めて、それを具体化出来ていること。
- B 同じような記事の羅列ではなく、目的にあわせて記事が精選されていること。
- C 記事の中で重複する内容や、伝えたいことと直接関係がない部分は記事の再構成をかけること。
- D レイアウトは無駄なく、バランス良くまとめ、その構成に意味を持たせること。（読み手に読ませたい順番で記事を配置すること）
- E 各記事の特に読んでもらいたい部分にはアンダーライン等を入れ、趣旨をくみ取ってもらいやすくすること。
- F 必要な記事には必要なコメントを付けること。コメントは単なる感想ではなく、問題提起や作り手の意見などを盛り込み、読み手に伝えたい内容を伝える手だてとすること。

② 各学級で2～3名のグループを作らせた。グループでの活動の意義は、友人と話し合い、意見を交換しながら作品をまとめてことにあるが、グループ内の人数が多いと、活動に参加せずに終わる生徒もあり、やる気のある生徒に任せっきりになる傾向がこれまでであったため、今回は最低規模のグループでの活動とした。

結果的にグループの提出率は85%程だった。これまでの大きな課題（グループ新聞等）と比較するとほぼ同率。

③ グループが出来ると切り集めた新聞を分類・整理してテーマ決め。手元にある記事を国別や内容別に分類し、テーマを決定していく。

ほとんどの生徒が夏休み期間の新聞から切り抜いているので、テーマは限定的になりがちだった。多くのグループが「リビアでの内戦」と「中国の列車事故」。しかし、安易にこの記事が多いからという理由付けが多かったため、テーマの多様性を出すために以下の指示を付け加える。

「今回の新聞は優秀12作品は沖縄県中文連の県大会に出品すること、出品12作品は出来るだけ幅広いテーマから選出すること、さらに次点の12作品は校内学習発表会で掲示すること、いずれにしても代表作品はそれなりの評価点が加算されること」を連絡すると、やる気や能力の高いグループは新たなテーマ設定に取り組んだ。

④ 生徒がもっとも苦しんだのがこのテーマ設定であった。安易にリビア内戦について選びたがるグループが多かったが、北アフリカの現状や内戦自体の定義も解らぬままに決定しようとする生徒は、上記の「評価の基準」A・Bの要件をクリア出

来ず、苦しんだ。収集した記事を読みすすめるなかで、自分自身が理解できる内容へテーマが変わっていく。

活動当初は「中国列車事故」「リビア内戦」が大半だったが、「各国の原発対応」「災害と異常気象（タイ洪水・米国ハリケーン等）」「アメリカの宇宙開発」「オバマ大統領の活動」などに変わっていった。

3 新聞の作成 テーマが決まったグループは以下の流れで新聞を仕上げていく。

① テーマに即した資料の収集。

他のテーマを選択したグループのスクラップ記事の中から、必要な記事を収集。再度、自宅にて過去の紙面からの切り抜き。夏休み明けの記事からの収集。特に実践中は校内の閲覧新聞に生徒が群がり、教室内でも時事的な会話が頻りに聞かれた。特にフセインが殺害されると、リビア内戦のグループは大慌てで紙面の構成を変えていた。

② 伝えたい内容に合わせて資料の選抜。

本県では琉球新報・沖縄タイムス2社に読者が分けられるため、どちらの記事を使うのか、コラム等も微妙な見解の相違がみられ、資料選択の大切な場面となった。当初、多くのグループは新聞用紙を切り抜きで埋めることに注意を奪われ、両社で同じ内容を伝える紙面や、伝えたい内容から離れた記事も切り抜き新聞紙面に入れようとしていた。しかし、担当教師の「伝えたい内容が伝わりにくい」という指摘や、切り抜き新聞紙面のキャパシティの問題から、記事の内容を吟味し資料の選抜を進めていった。

③ 伝えたい内容に合わせてレイアウト

利用する記事の選択が終わると、切り抜き新聞のレイアウトに入った。これまでの活動の中で、何をどう伝えるかが明確になると、同じテーマの新聞でも、伝えたい内容によってレイアウトが変わってくる。

時系列に並べたグループが多かったが、中には一つの事象について賛成派と反対派との対立軸でレイアウトしたり、国や地域に分けて整理するグループなどが見られた。



④ アンダーライン・コメント等を添えて完成

最後に各切り抜き記事のなかで、「どうしても読んでもらいたい部分」に蛍光ペンでアンダーラインを引かせた。このアンダーラインを順に追って目を通すことで、

自分たちの新聞が最低限伝えたいことが伝わるように工夫するように指示を出した。

最後に必要と思われる記事にはコメントをつける作業をさせた。当初は単なる感想を書く生徒が多かったが、感想ではなく意見や解説をつけるように指導した。この際も伝えたい内容をはっきりと決めているグループは、自分たちの伝えたい内容を端的に入れ込みながらコメントをつけていった。

III 成果と課題

1 成果

- ① 資料集を夏休みの課題とし、新聞記事の切り抜きをそのまま使うことにより、大幅に時間の短縮が出来た。テーマ設定から完成まで、各学級が8～9時間程度で収まった。
- ② 新聞記事をそのまま張り込むので、だらだらとした転写の時間がなくなり、その分を資料の吟味・選択にまわし、有効な学習場面を持つことが出来た。
- ③ 授業後に学校内の自由観覧できる紙面を生徒が開くようになった。授業の中でも時事的な話題について、生徒からの質問も上がるようになってきた。
- ④ 沖縄県中学校文化連盟県大会に出品し、高い評価を得ることができた。また、新聞紙面の利用法の一つとして提案することができた。



2 課題

- ① 学級内で極端に国語力の劣る生徒にとっては、難解な授業となった。新聞紙面を読み解くことが出来ない生徒のために、今後は国語科との連携も必要と思われる。
- ② 今回は新教育課程の世界地理のまとめとして扱った授業だが、時事的な要素が強くなるので、新聞記事の内容が先読みしにくいところに扱い辛さがある。
- ③ 新聞を購読していない生徒のための配慮をしたつもりだが、県内2紙が毎日届いた NIE 県指定実戦校の現状でも、十分に対応出来なかった。今後は紙面の調達も課題の一つになるだろう。



豊見城市立豊見城中学校
担当 仲程 俊浩

1 はじめに～新聞を活用することの有効性～

私たちが世の中の出来事を知る手段として、手軽に利用できるものに新聞・ラジオ・テレビ・パソコン・携帯電話などがある。それぞれに長所・短所はある。しかし、情報をプリントアウトしなくても活字として後に残り、電源を入れなくてもいつでもどこでも情報を見ることができる新聞は、日々の出来事を私たちに伝えてくれる便利で重要な情報伝達の手段であり、また、情報が豊富にあるだけでなく、社会的事象や物事への多角的な見方を身に付けさせ、思考力を育てていくのに有効な情報媒体でもある。

さらには、新聞の記事は並列に置かれるので閲覧性や比較性に長けている。直列のテレビやインターネットの情報とは大きく異なる。このことが、新聞を利用しやすく、情報の収集・吟味・選択（判断）を容易にさせている理由だと考える。

新聞記事は生徒の生活を取り巻く社会で起きている出来事や問題を取り上げており、文章の構成もしっかりしている。日頃から授業などで記事を読んだり、内容をまとめたりすることで、生徒の時事問題に対する興味・関心の他に、読解力や思考力、表現力を伸ばすことができる。今回改訂された学習指導要領の基本方針も、新聞記事の活用を通して考える力を育てる NIE の目指す方向と重なる部分がある。

新聞はさまざまに形容されるが、NIE に関して言えば、「生きた教材」である。教科書は編集から発行、生徒の手に届くまで数年かかるが、新聞は昨日のことが今日の朝刊に載せられている。生きた内容だといえるし、記事は現実に社会で起きたことを扱うので、つくりごとではなく、内容が事実・真実のことである。

また、新聞の中には生徒の知らない世界が広がっている。それに日々触れることで、新しい知識が蓄えられると同時に、知的好奇心が刺激されて物事を深く考えるようになる。新聞は社会と自分との関わりを知るだけでなく、生きたニュースを題材に学力を高めることができる「最高の教材」である。

今後も学校と新聞社が両輪となりながら、「新聞って楽しいもの。大事なもの」と生徒たちに感じさせ、喜び・感動・怒り・悲しみ・悔しさなど、社会で起きているさまざまな出来事が載せられている新聞を、周りの記事との関連を含めて学習材として生かしていきたい。

2 実践内容

(1) 新聞に親しむ〈第1ステップ〉

- ねらい**
- ①新聞とはどういうものかを理解させる。
 - ②新聞には自分にもわかる、役に立つ面白い記事や写真があることに気づかせる。

実践内容

- 新聞にはどんな記事が載っているか、面ごとに説明する。
※参考文献 ・池上彰著 2010 年『池上彰の新聞活用術』ダイヤモンド社発行
・池上彰著 2011 年『新聞勉強術』文藝春秋発行

○「四コマまんが」の活用～時事的な内容のときも多い～

新聞は幅広い情報を扱っていることが強みのひとつである。その幅の広さを利用して、生徒が興味を持つ部分から始めたいと考え、年度初めに四コマまんがを活用した。新聞に掲載されている四コマまんがは、時に時事性の高いテーマを取り扱っている。それが生徒の社会に興味を広げる、いいきっかけになると考えた。



【生徒作品】

生徒は話をつくるのが大好きである。あらすじを書くのは、厳密には話をつくるのとは違うが、まんがに自由に説明をつけるのは楽しい作業で、皆興味を持って取り組んだ。

(2) 新聞を読む〈第2ステップ〉

- ねらい**
- ①生徒の興味・関心のある記事から、徐々に生徒に読ませたい記事へと関心の幅を広げる。
 - ②教材としてタイムリーな話題を提供し、生徒の興味・関心を高める。
 - ③継続することで社会（時事問題）への興味・関心、読む力、書く力を啓発する。
 - ④記事の内容の要約等を通して理解を深めさせ、生徒自身が意見等を持つことにつなげさせる。

実践内容

- 新聞の読み方を教える（逆ピラミッド、見出し、リード、5W1H など）
※参考文献 ・池上彰著 2010 年『池上彰の新聞活用術』ダイヤモンド社発行
・池上彰著 2011 年『新聞勉強術』文藝春秋発行
- 授業に関連した記事をノートに貼らせ、教材として活用する。その他、要約や意見、感想などを書かす。 【生徒ノートから→】
- 新聞コメント記入。
・毎週月曜日に、先週一週間で話題に上がった記事の一つを選び、色画用紙に貼り付け、各クラスの掲示板に掲示する。
・その記事を読んだ感想や意見を書かす。（任意）
・適宜授業で取り上げるなどして紹介する。



【生徒から寄せられたコメント】

【記入の様子】

(3) 新聞で考える〈第3ステップ〉

- ねらい**
- ①幅広い分野（政治・経済・国際など）のニュースを理解させる。
 - ②自分の考え（意見）を持ち、発表（報告、討論）することができる。また、発表（報告、討論）を通して、他の生徒の考え（意見）を知ることができる。
 - ③新聞の役割を理解させる。
 - ④幅広い人間教育につなげる。

実践内容

- ファミリーフォーカスの実践。
 - 授業に関連した記事について意見を発表させる。
 - グループ学習をし、グループごとにまとめ、発表させる。
- } 研究授業の課題
} 下記【公民的分野に係る授業実践】参照)

実践例

【ファミリーフォーカス〈年5回実施〉】

- ①実践のねらい ・社会的事象についての自分の考えを持つことができる。
・親子で何かのテーマについて話し合う事で、互いの思いや考えを聞くことができる。
- ②実践方法 ○生徒が興味・関心のある記事を選択し、切り取ってワークシートに貼り付ける。
↓
○記事を要約して意見・感想を書き、家族に読んでもらい、家族の方にも意見・感想を書いてもらう。
↓
○家族の意見・感想を読み、それに対する意見・感想を生徒が書く。

③生徒と保護者の声（原文のまま）

保護者「意外に会話が弾んで子どもと一緒に楽しめました。米軍基地に対する子どもの感想の中に“日米地位協定”や“9条”の言葉があり、そのちゃんとした考えにびっくりしました。大人もしっかり考えていこうと思いました。（それにしてもおもしろい宿題ですね）」→ → →

生徒「基地に対して親と同じ考えだったのでうれしかったです。私の住んでいる豊見城市には基地はありませんが、おばあちゃんの家が嘉手納なので今度行ったとき、今度は道の駅から実際に見ながら考え話し合ってみたいと思いました」



【公民的分野に係る授業実践】

①テーマ 時事問題に関心を持つ。

- ②目標
- 公民で学習してきた内容と、それに関連する新聞記事を通して、社会的事象（時事問題）に関する知識や社会的な物の見方・考え方、興味・関心を深める。
 - ゲストティーチャー（記者）を通して、社会に関心を持たせる新聞への理解を深める。
 - 学習内容や新聞記事から自分の考えをまとめ、根拠を明らかにしながら発表できる。

③学習の工夫 少人数の班で話し合いやすい場面を設け、意欲的に学習に取り組ませる。また、クラス全体の話し合いにより多様な物の見方を学び合わせる。

④ 授業展開

I、各班で話し合い、テーマを決める。（→10テーマが決定）

「人口問題」「TPP」「裁判員制度」「米軍属、日本で裁判」「死刑制度は合憲」「平等権～男女混合名簿を通して～」「タイの洪水被害～その時、日本企業は～」「八重山における自衛隊基地問題」「臓器移植問題～要美優さん～」「幸福度指数とGDP～ブータン国王夫妻来日～」

II、新聞からテーマに関わる記事を切り抜く。

III、ワークシートに記事を貼り付け、記事を選んだ理由と内容、班のコメントを記入する。

IV、班ごとに発表する。

V、ゲストティーチャーによる講評。



【実際の発表資料】



【班ごとの発表】

⑤ 生徒感想（原文のまま）

- 今まで教科書と新聞を結びつけて考えたことはなかったけど、教科書と社会がつながっているんだと感じました。
- 臓器移植について発表しました。新聞には教科書に載っていない新しいニュースが載っていたので興味を持つことができました。
- TPPの内容はとても難しかったです。（中略）今回のように、今、目の前で起こっている社会問題を毎日新しい情報を映していく新聞で勉強するのは大事だと思います。



【ゲストティーチャー講評】

⑥ 本授業の成果と課題

〈成果〉

- 新聞記事の特性を生かした学習を展開することで、生徒が社会的事象と向き合い、思考を深めながら自分の言葉や解釈を加えて発表・表現する学習が展開された。
- 新聞は様々な社会的事象を取り扱っていることから、情報源としてはもとより、生徒が自分の考えを深めていく上でも一定の役割を果たすことが分かった。

- 新聞の持つ「繰り返し読める」「詳しく書かれている」「最新情報」といった特性は、理解の遅い生徒に対しても、学習を深める上で有効であることが分かった。

〈課題〉

新学習指導要領では様々な学習が想定され、新聞の担う役割もますます重要になってくる。その中でいかに新聞を活用できるか吟味・検討を図っていく必要がある。

⑦ その他（教師の感想等）

学校の教科教育では、学習が現代社会と隔てられた印象を生徒に与えてしまいがちである。教師は生徒と現代社会とのつながりを意識し、現代社会への理解を向上させることが必要ではないだろうか。その点、新聞は特別な装置がいらず現代社会の話題を簡単に持ち運びできる優れた教材であり、一般的な教室での社会科学習に適している。

授業という社会から距離を置かれた空間において、新聞は現代社会の窓口として授業に活用することができることを本授業で改めて実感した。新聞は現代社会と接点を持つ教室・授業づくりに有効である。実際に新聞を配布すると2週間から2ヶ月ほど前の記事であったにもかかわらず生徒は上げて読み出し、学習のきっかけとなった。

今後、新聞を生かした授業実践例を増やし、教師間でも共有していきたい。

（4）その他

NIE活動に関し、昨年までは教師が主導して推進（教師側からのNIEの試み）することが多かった。そこで今年度は、生徒側からの活動を主にした展開方法も検討した。NIEを通して、生徒自らが身の回りの出来事に興味・関心を持ち、主体的に取り組む態度を育成したいと考えた。

① NIEコーナーの設置

「正面玄関から教室へ」。生徒が最も頻繁に通るその動線上に、生徒と新聞との出会いが生まれるように、そしてなるべく気軽に新聞を広げられる環境を作ろうと考え、畳を敷いてNIEコーナーを設置した。

当初は、NIEコーナーに目を向けるものの新聞を手にとって読むような生徒はほとんどいなかったが、やがてそこに新聞があることが当たり前になってくると、学年を問わず多くの生徒が興味を示し、新聞を手にとって読み、記事のことを話題にするようになった。中には毎日のようにNIEコーナーに来て記事に目を通して生きている生徒もいて、新聞に対する興味関心は数段高まったように感じている。



【NIEコーナー】

②NIEクラブによる取材・体験活動

【NIEアワー】

○実践時間 毎日の給食時間

○ねらい

- ・校内放送を使うことで、より多くの生徒にニュースを伝える。
- ・新聞を使うことで、今起きている時事問題への関心を高める。

○内容

〈準備〉休み時間を利用して、紹介する記事2本を選ぶ。（給食時間に話題が広がるよう、地域の出来事などの身近な話題、明るいニュースを取り上げることを心掛けている）

〈実践〉給食時間にその日の担当者が放送室に行き、“本日のニュース”を読み上げる。



【アナウンスの様子】

【取材・体験活動】

〈東日本大震災〉

新聞記事で『東日本大震災特集』を制作中に、「応援や思いを届ける方法はないか」「被災された方々の心に寄り添いたい」等の願いから、暑い夏にどこでも手軽に使える“うちわ”を贈ることを考えた。うちわは被災地に無事届けられた。



【2011年8月3日琉球新報】

〈聞き取り取材体験〉

新聞記者に同行して、沖縄戦体験者の証言を聞く取材活動を体験した。

生徒感想「いつもは新聞を読む側だけど、今回の記者と一緒にするのが取材体験は、記事の書き手の気持ちを実感することができて勉強になった」



【2011年9月24日琉球新報】

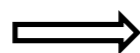
〈新報ジュニア通信員〉

○ねらい： 生徒自身の手によって学校内外の自慢や話題、情報、課題等を見つけ、多面的な取材活動や分析を通して、地元紙に情報提供や問題提示をしていく。

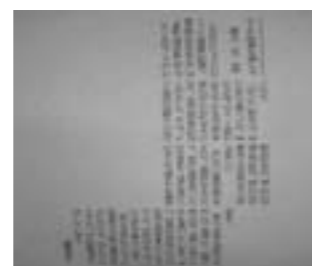
○様子： 紙面に自分たちの記事が掲載されると、生徒やその周囲の大人だけでなく、地域からも感謝や意見等の反響がある。人のために、地域のために活動しているという自覚が強化され、より内発的な動機が高揚し、次の取材にチャレンジしてきた。



【2011年7月10日琉球新報】



〈地域から反響が〉



【2011年7月19日琉球新報「声」より】

〈博物館・美術館取材〉

特別展「宇宙～遙かなるロマンを求めて」の展示会を担当する学芸員を取材した。

生徒感想「宇宙の魅力に触れて楽しかった。反省点は、事前にもっと質問内容を精選しておくべきだったこと。この反省は絶対次に生かしたい」



【2011年8月13日沖縄タイムス】

〈速報記事発行〉

第17回県中学校総合文化祭に参加し、取材・写真撮影から印刷まで行い、1,000部発行した。

新聞を通して得られる情報を単に受容するのでは、受け身の姿勢を持つ読者しか育成できない。本当の意味で新聞にとってよい読者となりうるには、ある記事を書いた記者がどのような



【2011年12月11日1版と2版】

取材を重ね、どのように判断し、どのような考慮を踏まえて記事を完成させるのか、このプロセスを意識して新聞に接することのできる者だと考える。

その意味で今回、速報記事を発行したことは生徒たちにとってこの上ない貴重な体験となった。

(5) 今後の課題

情報化社会の中で、何が正しいのか、何が重要であるのかを選択する能力が望まれている。この点において、新聞の読み方を学ぶことによって、自ら学び、考え、判断する力を培う NIE の活用範囲には大きいものがあるので、さらに研究を深め検討を加えていきたい。

沖縄県立真和志高等学校
教諭 新田 誠

はじめに

本校は、普通科で3つのコースがあり、単位制による特色ある教育課程を持っている。具体的には、琉舞や古武道、囲碁など多様でユニークな選択科目が用意され、制服がない等、他の高校とは違った自由な雰囲気を持っている。一方、中途退学者が多く、卒業までどのように生徒たちを支援していくかが学校の大きな課題の一つである。

ところで、生徒たちの日常の情報源として主なメディアは、携帯、テレビ、ネットであり、新聞記事が話題にのぼることはあまりない。その理由として、「新聞が身近にないから」というよりも、新聞の記事やニュースそのものに興味・関心が向かないというのが実際感覚に近いのではないかと感じている。「漢字が読めない、意味がわからないから読まない」という生徒も中にはいるだろうが、少しぐらいの難しい漢字があっても、ニュースや記事を理解し、そこから知的好奇心が触発されれば、難しいテーマでも主体的に取り組むのではないかと思っ N I E に取り組んでいる。

1. 本校で N I E に取り組む目的

平成 22 年度 9 月、N I E 推進するにあたって、その目的を「新聞を読む力をつけ、社会に関心を持ち、知的好奇心を高め、知らないことによって不利益が生じないようにする。」とした。卒業後、就職する生徒が 3 割に達している状況で、時事問題を知らず、関心を持たずに社会に出て行くことは、本人にとって大きな不利益を被ることが予想されるからである。

2. 主な活動

平成 23 年度

- 8 月 職員研修「N I E について」(全国大会参加報告を兼ねて)
- 9 月 新聞閲覧台、掲示板の設置(購読紙の開始時期に合わせ)
- 10 月 職員研修「N I E 研修」(教師向けワークショップ、講師：兼松力氏)
- 3 月 沖縄タイムス新聞社見学(1 年 3 組の生徒)

平成 24 年度

- 9 月～2 月 各教科による取り組み
- 2 月 職員研修(校内 N I E 実践報告会)
- 2 月 琉球新報社見学(国語表現選択クラス)

3. N I E の実践内容

H 24 年 2 月の職員研修で発表のあった内容の報告
国語

(1) コラムと複数の新聞記事を読む (田村教諭)



左
上



(コラムの読解)、上、下(補助資料)

コラムを使って読解プリントを作成し、同内容の資料を作成し、読解の内容を深める。教材研究としては時間がかかるが、生徒には多角的な視点から考えさせることができる。上記の資料は、映画「ヤギの冒険」に関するもの。他に、「ウナギの産卵場所の発見」、「タイガーマスクを名乗る児童施設への寄付」等の教材と資料を作成。



(2) 同一記事の編集を比較 (宮里教諭)

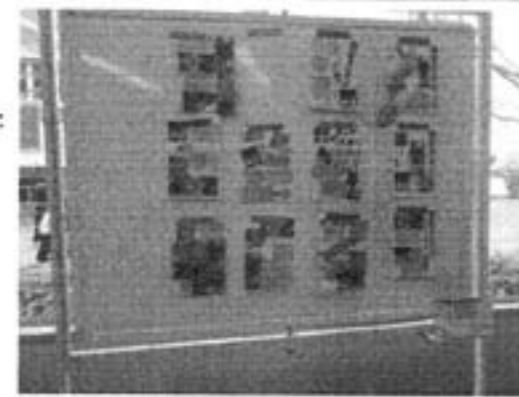
同一記事を A 4 の用紙に収めるとしたらどの見出しや写真、文を選ぶかを考えさせる。また、互いに作った作品を見比べることで、新聞記事には編集者の意図や価値観が表れていることを確認する。記事の見出しが用紙の長さよりも長かったため、見出しの略語を使って、レイアウトを工夫する生徒もいた。



(下写真) 作品の差異を確認する。

(3) 2 社の新聞の記事の比較 (川畑教諭)

同一内容の記事をどう扱っているかを文字数や写真の大きさ、内容から比較分析する。同日に発行された 2 社の新聞の記事数、写真、広告、文字の大きさ等を比較し分析する。



(4) 新聞に投稿する (新田教諭)

読者欄に掲載されたテーマや内容を理解して原稿を書き投稿する。(3 点掲載される)

社会

(5) ニュースの解説 (嘉数教諭)

現代社会の授業で、ニュースを全然知らない実態に危機感を持ち、授業のはじめ10分間を、ニュースの解説に(池上彰氏をまねて)あてている。次第に生徒の質問も多くなり、現在は多様なテーマから質問するようになった。

※右写真は、同教諭の成人の日に掲載された社説を使って授業した実践の報告。



音楽

(6) 著名な音楽家の側面を新聞にする。(濱元教諭)

普段の音楽の授業では、音楽家の人間としての側面に触れることがあまりないので、おもしろいエピソードなどを集めて新聞を作り、発表、解説することで音楽作品にも興味や関心が高まる。

※チャイコフスキーやワーグナーが紹介された。



家庭科

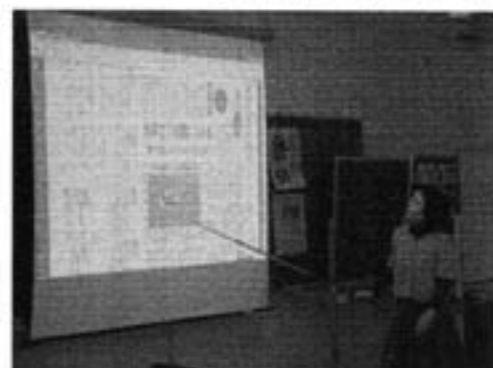
(7) 食や出産に関する記事を読み、生き方を考える (阿波連教諭)

①飽食の日本に対して、世界には餓死している子どもたちがいる状況を述べた記事を読み、自身の食生活を考える。

②若くして出産した女性の生き方をつづった記事を読み、出産・育児の厳しい現実を考える。

※本校は、他校と比較して若く出産するケースが多い。

③低体重出生児についての記事を読み、胎児に対するたばこなどの影響について考える。



数学

(8) 数学新聞を作る (知名教諭)

数学史と数学用語を解説した後で、興味をもった事項について調べ、それを新聞にする。「発展数学」(学校設定科目)の授業での取り組み。



英語

(9) ①東北大震災を述べた英字新聞を読み、日本での新聞の報道との違いを考える。(宮城教諭)

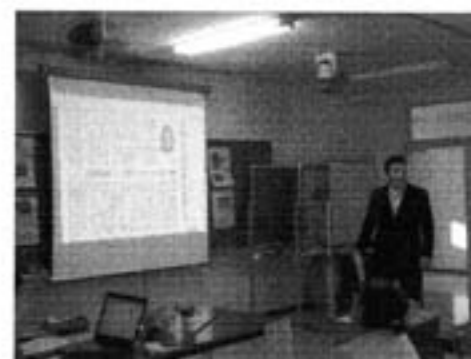
当事国と外国とでは、報道内容において違いが生じる。写真一つにしても違いがある。日本では、規制される写真も外国では使われていたりする。

※上記の他に戦没者遺骨が発見された記事を読み、実際にフィールドワークを行った取り組みも紹介された。



福祉

(10) 人権について書かれた作文(新聞掲載作品)を読んで感想を書く。(崎山教諭)



4. その他の取り組み

新聞閲覧台の設置

昼食時に生徒がよく集まるベンチに新聞閲覧台を設置、購読紙を置く。



5. 成果と課題

成果

1. 職員がNIEについての理解を深め、新聞を教材として扱う方法を知り、実践するきっかけとなった。
2. 生徒が時事問題やニュースについて知るきっかけとなり、自身の考えや生き方を見つめるきっかけとなっている。

課題

1. 実践の内容が教科内のもので終わっており、キャリア教育や総合学習などにおけるNIEの展開ができなかった。
2. 指定校を外れて、新聞をどのように確保することができるか。
3. 職員のNIEに対する取り組みをどのようにしてサポートできるか。

【沖縄県 NIEアドバイザー紹介】

沖縄県内には日本新聞協会が認定する「NIEアドバイザー」が4人います。NIE活動の実践経験豊かな小学校教諭2人、中学校教諭2人の計4人が、活動の普及や質を高める役割を担っています。



◆兼松力 (2011年度勤務校 与那原町立与那原中学校)

2000年にNIE実践校の実践者として活動を始め、2004年に県内初のNIEアドバイザーに就任した。「子どもの地域参加」をテーマに、投稿活動や新聞作りなど諸実践を積み重ねてきた。2012年度勤務校は、南城市立大里中学校。専門は社会科。

連絡先：南城市立大里中学校 (電話) 098-945-2442
(FAX) 098-945-1635



◆仲程俊浩 (2011年度勤務校 豊見城市立豊見城中学校)

2008年からNIE活動に関わり始め、2011年9月にNIEアドバイザーに就任した。親子で一つの記事について意見を深め合う「ファミリーフォーカス」を実践した。課外活動「NIEクラブ」の顧問として、昼休み時間に生徒らがニュースを校内放送する「NIEアワー」や新聞作りなどにも取り組んでいる。専門は社会科。

連絡先：豊見城市立豊見城中学校 (電話) 098-850-0036
(FAX) 098-850-3929



◆甲斐崇 (2011年度勤務校 北中城村立北中城小学校)

2008年から実践者となり、2011年9月にNIEアドバイザーに就任した。新聞に慣れ親しむ活動や日常的な活動、環境教育やキャリア教育で新聞を活用してきたほか、コンピュータを活用した新聞作りや、情報教育と連動した活動も展開している。NIEに関する他校の授業づくりや校内研修にも積極的に協力している。2012年度勤務校は北谷町立浜川小学校。

連絡先：北谷町立浜川小学校 (電話) 098-936-4952
(FAX) 098-936-0163



◆佐久間洋 (2011年度勤務校 宜野湾市立宜野湾小学校)

2008年からNIE活動を始め、2011年9月にNIEアドバイザーに就任した。社会の出来事に関心を持たせ言語能力を高めることを目的としてあらゆる教科や場面で新聞を活用してきた。新聞記事を活用した朝の1分間スピーチを継続し、児童の話す力や聞く力、書く力を育成してきた。2012年度勤務校は伊平屋村立伊平屋小学校。

連絡先：伊平屋村立伊平屋小学校 (電話) 0980-46-2009
(FAX) 0980-46-2665

【2011年度活動報告】

◆概略

2011年度は小学校新学習指導要領の完全実施を背景に、NIEへの関心が学校現場で非常に高まった。9月には新たに3人のアドバイザーが誕生して全4人体制となり、他校からの校内研修の要請や授業の応援などに積極的に対応することができた。地元2紙も、子ども新聞や新聞活用を促す企画に力を入れると同時に、NIE関連の新しい事業やイベントなどに取り組んだ。

2012年4月には教員を主体とする「NIE研究会」が発足した。12年度は県と連携した初のNIE教員講座を開催できるよう、準備を進めている。

◆県NIE推進協の主な活動と成果(2011年6月～2012年3月末)

- ・2011年6月17日 2010年度総会(於：沖縄タイムス社)
※事務局が沖縄タイムスから琉球新報へ移行(2012年度末まで)
- ・7月24～26日 全国大会への参加(教師、事務局13人、取材記者4人の計17人が参加)
- ・8月2日 NIEアドバイザー就任要請(山内彰会長らが4校訪問)
- ・9月14日 日本新聞協会NIE専門部で、仲程俊浩氏、佐久間洋氏、甲斐崇氏のNIEアドバイザー就任が正式決定
- ・10月17日 日本新聞協会主催「第2回いっしょに読もう!新聞コンクール」の一次審査(於：琉球新報社)
- ・11月15日 県NIEフォーラム(於：那覇市立小祿南小学校)
→全26学級で公開授業、保護者600人含む750人が参加
- ・12月10、11日 県中学校総合文化祭への参加、協力
→中学生の速報発行を両新聞社が支援、NIEの展示ブースも設置
- ・2012年2月15日 大城浩県教育長への要請活動(山内彰会長、アドバイザー、両紙編集局長)
→夏休みの短期講座の開催、全国大会への職員派遣について発言
- ・3月5日 NIE実践校最終報告会(於：琉球新報社)

【沖縄県NIE運動の経過】

- 1996年**(平成8年)
沖縄県NIE連絡会結成。
- 1999年**(平成11年)
日本新聞文化教育財団によるNIE実践指定校に那覇市立松島小、同古蔵中、県立首里東高。
- 2000年**(平成12年)
2月26日 県NIE連絡会を母体に、沖縄県NIE推進協議会設立総会。初代会長に津留健二元県教育長。事務局を沖縄タイムス社に設置。
7月 財団実践指定校に豊見城村立とよみ小、沖縄カトリック小、平良市立(現宮古市立)西辺中、東風平町立東風平中、県立首里東高、同浦添高。
7月27日 NIE全国大会(横浜市)参加。
- 2001年**(平成13年)
3月16日 県NIE推進協議会総会。津留会長再任。

5月23日 財団実践指定校に東風平中、浦添高（以上継続）、県立中部商業高（新規）。

7月26日 NIE全国大会（神戸市）参加。

2002年（平成14年）

4月5日 県NIE推進協議会総会。津留会長再任。

5月23日 財団実践指定校に県立中部商業高（継続）。

7月17日 財団実践指定校に那覇市立城北小、沖縄市立室川小、琉大附属中、沖縄尚学附属中、県立辺土名高校（以上新規）。

8月1日 NIE全国大会（札幌市）参加。

2003年（平成15年）

3月27日 県NIE推進協議会総会。会長に渡久地政吉元那覇市教育長。事務局を琉球新報社へ。

7月16日 財団実践指定校に県立那覇高（新規）、那覇市立城北小、沖縄市立室川小、琉大附属中、沖縄尚学附属中、県立辺土名高校（以上継続）。

7月31日 NIE全国大会（島根県）参加

2004年（平成16年）

7月7日 財団実践指定校に浦添市立当山小、座間味村立座間味小中校、那覇市立小禄中、同上山中、県立浦添商業高（以上新規）、同那覇高（継続）。

7月 財団が「NIEアドバイザー」制度を発足。県内から兼松力教諭が初めてNIEアドバイザーに認定される。

7月29日 NIE全国大会（新潟市）参加。

2005年（平成17年）

3月20日 「日本NIE学会」が発足。

4月27日 県NIE推進協議会総会。渡久地会長再任。事務局を沖縄タイムス社へ。

5月18日 財団実践指定校に浦添市立当山小、座間味村立座間味小中校、那覇市立小禄中、同上山中、県立浦添商業高（以上継続）

7月28日 NIE全国大会（鹿児島市）参加。

11月7日 初めての「NIE週間」実施。

2006年（平成18年）

5月17日 財団実践指定校に那覇市立銘苺小学校、名護市立大宮小、沖縄三育学院中、うるま市立石川中、那覇市立石嶺中、県立向陽高、同南風原高（以上新規）。

5月25日 県NIE推進協議会総会。渡久地会長再任。

7月20日 財団実践指定校2次分に座間味村立慶留間小中。

7月27日 NIE全国大会（水戸市）参加。

2007年（平成19年）

県NIE推進協議会総会。会長に山内彰元県教育長。事務局を琉球新報社へ。

7月18日 財団実践指定校に名護市立大宮小、那覇市立銘苺小、沖縄三育学院中、うるま市立石川中学校、那覇市立石嶺中（以上継続）、糸満市立三和中学校（新規）。

7月26日 NIE全国大会（岡山市）参加。

11月10日 県NIE実践フォーラムを初めて開催（琉球新報本社）

2008年（平成20年）

7月16日 財団実践指定校にうるま市立比嘉小中、北中城村立北中城小、宜野湾市立宜野湾小、那覇市立さつき小、うるま市立高江洲中、那覇市立古蔵中、豊見城市立豊見城中（以上新規）。

7月31日 NIE全国大会（高知市）参加。

11月10日 県第2回NIE実践フォーラム開催（沖縄タイムス本社）・

2009年（平成21年）

4月17日 NIE実践中間報告会（琉球新報社内）

5月9日 NIEワークショップ（琉球新報社内）

5月18日 県NIE推進協議会総会。山内会長再任。事務局を沖縄タイムス社へ。

7月30日 NIE全国大会（長野市）参加。

10月31日 県第3回NIE実践フォーラム開催（琉球新報ホール）

2010年（平成22年）

3月5日 NIE実践最終報告会（沖縄タイムス社内）

3月9日 山内会長、岸本沖縄タイムス社長、高嶺琉球新報社長らが県教育長を訪問し、大城浩統括官へNIEへの一層の理解と連携を要請。

4月 財団実践指定校の「奨励枠」に県内から初めて北中城小、宜野湾小（以上09年度財団指定校）を推薦し認定される。

財団実践指定校（新規）に沖縄市立越来小、宜野座村立漢那小、読谷村立喜納小、県立真和志高、読谷村立読谷中、那覇市立小禄南小、うるま市立勝連小の7校。

5月14日 NIEワークショップ（沖縄タイムス社内）

6月1日 県独自指定校制度が発足。協議会が4校を指定し、沖縄タイムス・琉球新報2紙を通年で提供開始。10年度は比嘉小、豊見城中（以上09年度財団指定校）、うるま市立石川中、与那原町立与那原中（以上新規）。

6月5日 九州地区事務局長会議・アドバイザー会議（熊本市）に与那嶺功事務局長、兼松力アドバイザー出席。

6月29日 県NIE推進協議会総会。山内会長再任。公認アドバイザー兼松氏。

7月29日 全国大会熊本大会に参加。（30日まで）

11月6日 第4回県NIE実践フォーラム（於：沖縄タイムス社）を開催。教育関係者、保護者ら200人が参加した。越来小が国語の授業を公開。記念講演は作家の大城貞俊さん（琉球大学准教授）。兼松力教諭、古波津聡教諭、山城銀子小禄南小校長、奥村敦子沖縄タイムス社学芸部デスク、佐藤ひろこ琉球新報社教育担当キャップをパネリスト、佐久間洋宜野湾小教諭をコーディネーターにシンポジウム「新学習指導要領とNIE」を行った。

2011年（平成23年）

2月9日 日本新聞教育文化財団の枝元一三コーディネーターを招いた特別講演会「新学習指導要領とNIE」（主催＝読谷中・喜名小、共催＝県NIE推進協）を読谷中学校体育館で開催。村内の教職員ら約120人が参加した。

2月10日 金武正八郎県教育庁に要請活動。山内彰会長、中根学沖縄タイムス社編集局長、玻名城泰山琉球新報社編集局長、兼松力アドバイザーらで、NIE活動への理解と協力を要請した。

4月 県指定校制度の継続を確認。2010年6月にパイロット事業としてスタートした沖縄タイムス社と琉球新報社による県指定校制度の継続実施を確認。5校を上限に指定予定。

【沖縄県N I E推進協議会組織】（2011年度現在）

〈会長〉	山内 彰（元沖縄県教育長）
〈顧問〉	富田詢一（琉球新報社代表取締役社長） 豊平良孝（沖縄タイムス社代表取締役社長）
〈N I Eアドバイザー〉	兼松力（与那原中学校教諭） 仲程俊浩（豊見城中学校教諭） 甲斐崇（北中城小学校教諭） 佐久間洋（宜野湾小学校教諭）
〈事務局長〉	名城知二郎（琉球新報社編集局次長）※4月から佐藤ひろこ（編集局N I E推進室記者） ※事務局は琉球新報社と沖縄タイムス社が2年交代で担当

〈会員社〉
琉球新報社▽沖縄タイムス社▽宮古毎日新聞社▽八重山毎日新聞社▽朝日新聞社（那覇総局）▽毎日新聞社（那覇支局）▽読売新聞社（那覇支局）▽日本経済新聞社（那覇支局）▽共同通信社（那覇支局）▽時事通信社（那覇支局）

※N I Eとは…「Newspaper in Education」の略称。「教育に新聞を」活動とも呼ばれ、学校などで新聞を教材にして学ぶ活動を指す。1930年代に米国で始まり、世界新聞協会によると2006年時点で、64カ国で実施されている。日本では85年の新聞大会で提唱され、学校の新聞購読料を補助するN I E実践校制度は89年にスタート。2011年度の実践校は542校に上る。

〈県内N I E実践校〉

【2011年度】

那覇市立小祿南小学校

沖縄市立越来小学校

うるま市立勝連小学校

宜野座村立漢那小学校

読谷村立喜名小学校

読谷村立読谷中学校

県立真和志高校

宜野湾市立宜野湾小学校 *全国奨励校

北中城村立北中城小学校 *全国奨励校

与那原町立与那原中学校 ※琉球新報、沖縄タイムスを活用する県指定校

豊見城市立豊見城中学校 ※琉球新報、沖縄タイムスを活用する県指定校

【2010年度】

那覇市立小祿南小学校

沖縄市立越来小学校

うるま市立勝連小学校

宜野座村立漢那小学校

読谷村立喜名小学校

読谷村立読谷中学校

県立真和志高校

宜野湾市立宜野湾小学校 *全国奨励校

北中城村立北中城小学校 *全国奨励校

うるま市立比嘉小学校 ※琉球新報、沖縄タイムスを活用する県指定校

与那原町立与那原中学校 ※琉球新報、沖縄タイムスを活用する県指定校

うるま市立石川中学校 ※琉球新報、沖縄タイムスを活用する県指定校

豊見城市立豊見城中学校 ※琉球新報、沖縄タイムスを活用する県指定校

【2009年度】

那覇市立さつき小学校

那覇市立古蔵中学校

うるま市立比嘉小学校

うるま市立高江洲中学校

宜野湾市立宜野湾小学校

北中城村立北中城小学校

豊見城市立豊見城中学校

【2008年度】

那覇市立さつき小学校

那覇市立古蔵中学校

うるま市立比嘉小学校

うるま市立高江洲中学校

宜野湾市立宜野湾小学校

北中城村立北中城小学校

豊見城市立豊見城中学校

【2007年度】

那覇市立銘苅小学校

名護市立大宮小学校

糸満市立三和中学校（注1）

那覇市立石嶺中学校

うるま市立石川中学校

沖縄三育中学校

【2006年度】

那覇市立銘苅小学校

名護市立大宮小学校

座間味村立慶留間小中学校

那覇市立石嶺中学校

うるま市立石川中学校

沖縄三育中学校

県立向陽高校（注2）

県立南風原高校（注2）

【2005年度】

浦添市立当山小学校

座間味村立座間味小中学校

那覇市立小祿中学校

那覇市立上山中学校

県立浦添商業高校

【2004年度】

浦添市立当山小学校

座間味村立座間味小中学校

那覇市立小祿中学校

那覇市立上山中学校

県立那覇高校

県立浦添商業高校

【2003年度】

那覇市立城北小学校

沖縄市立室川小学校

琉球大学教育学部附属中学校

沖縄尚学高校附属中学校

県立那覇高校

県立辺土名高校

【2002年度】

那覇市立城北小学校

沖縄市立室川小学校

琉球大学教育学部附属中学校

沖縄尚学高校附属中学校

県立中部商業高校

県立辺土名高校

【2001年度】

豊見城村立とよみ小学校

沖縄カトリック小学校

平良市立西辺中学校

東風平町立東風平中学校

県立中部商業高校

県立浦添高校

【2000年度】

※沖縄県N I E推進協議会（発足）

豊見城村立とよみ小学校

沖縄カトリック小学校

平良市立西辺中学校

東風平町立東風平中学校

県立首里東高校

県立浦添高校

【1999年度】

※沖縄県N I E連絡協議会

（沖縄県N I E推進協議会の前身）

那覇市立古蔵中学校

那覇市立松島小学校

県立首里東高校

*注1＝座間味村立慶留間小中学校から
実践者異動による実践校の変更
*注2＝実践者の休職などによる指定中止
*注3＝市町村名は当時

教育



見玉忠・実行委員長

新聞と教育 連携探る

第16回NIE全国大会 青森で850人

可能性の具現化が課題 基礎提案

【青森県青森市】第16回NIE全国大会が30日、青森市文化会館で開かれ、約850人の参加者で、新聞と教育の連携を深めるための基礎提案がなされた。講演会や分科会などで、教育と新聞の連携の在り方を考えた。大会の様子は後述。



見玉忠・実行委員長

読み比べに独自性必須

【青森県青森市】第16回NIE全国大会が30日、青森市文化会館で開かれ、約850人の参加者で、新聞と教育の連携を深めるための基礎提案がなされた。講演会や分科会などで、教育と新聞の連携の在り方を考えた。大会の様子は後述。

【青森県青森市】第16回NIE全国大会が30日、青森市文化会館で開かれ、約850人の参加者で、新聞と教育の連携を深めるための基礎提案がなされた。講演会や分科会などで、教育と新聞の連携の在り方を考えた。大会の様子は後述。



見玉忠・実行委員長

文種の学びが自立促す

【青森県青森市】第16回NIE全国大会が30日、青森市文化会館で開かれ、約850人の参加者で、新聞と教育の連携を深めるための基礎提案がなされた。講演会や分科会などで、教育と新聞の連携の在り方を考えた。大会の様子は後述。



見玉忠・実行委員長

多岐の情報 興味広げて

【青森県青森市】第16回NIE全国大会が30日、青森市文化会館で開かれ、約850人の参加者で、新聞と教育の連携を深めるための基礎提案がなされた。講演会や分科会などで、教育と新聞の連携の在り方を考えた。大会の様子は後述。



見玉忠・実行委員長

記事利用 もっと気楽に

【青森県青森市】第16回NIE全国大会が30日、青森市文化会館で開かれ、約850人の参加者で、新聞と教育の連携を深めるための基礎提案がなされた。講演会や分科会などで、教育と新聞の連携の在り方を考えた。大会の様子は後述。

小学校で公開授業



レイアウトで読み手意識



質実取材記者の思い知る

【青森県青森市】第16回NIE全国大会が30日、青森市文化会館で開かれ、約850人の参加者で、新聞と教育の連携を深めるための基礎提案がなされた。講演会や分科会などで、教育と新聞の連携の在り方を考えた。大会の様子は後述。

【青森県青森市】第16回NIE全国大会が30日、青森市文化会館で開かれ、約850人の参加者で、新聞と教育の連携を深めるための基礎提案がなされた。講演会や分科会などで、教育と新聞の連携の在り方を考えた。大会の様子は後述。

【青森県青森市】第16回NIE全国大会が30日、青森市文化会館で開かれ、約850人の参加者で、新聞と教育の連携を深めるための基礎提案がなされた。講演会や分科会などで、教育と新聞の連携の在り方を考えた。大会の様子は後述。

教育と新聞の連携探る

NIE全国大会青森大会

【青森県青森市】新聞活用をすすめるために、新聞と教育の連携を深めるための基礎提案がなされた。講演会や分科会などで、教育と新聞の連携の在り方を考えた。大会の様子は後述。

文章多彩 教材として魅力

【青森県青森市】第16回NIE全国大会が30日、青森市文化会館で開かれ、約850人の参加者で、新聞と教育の連携を深めるための基礎提案がなされた。講演会や分科会などで、教育と新聞の連携の在り方を考えた。大会の様子は後述。

新聞製作 沖縄に関心

【沖縄県沖縄市】第16回NIE全国大会が30日、沖縄市文化会館で開かれ、約850人の参加者で、新聞と教育の連携を深めるための基礎提案がなされた。講演会や分科会などで、教育と新聞の連携の在り方を考えた。大会の様子は後述。

長野の中学 NIE大会で報告

【長野県長野市】第16回NIE全国大会が30日、長野市文化会館で開かれ、約850人の参加者で、新聞と教育の連携を深めるための基礎提案がなされた。講演会や分科会などで、教育と新聞の連携の在り方を考えた。大会の様子は後述。

教員NIE講座開催へ

新聞活用を高く評価

【青森県青森市】第16回NIE全国大会が30日、青森市文化会館で開かれ、約850人の参加者で、新聞と教育の連携を深めるための基礎提案がなされた。講演会や分科会などで、教育と新聞の連携の在り方を考えた。大会の様子は後述。

【青森県青森市】第16回NIE全国大会が30日、青森市文化会館で開かれ、約850人の参加者で、新聞と教育の連携を深めるための基礎提案がなされた。講演会や分科会などで、教育と新聞の連携の在り方を考えた。大会の様子は後述。

即断即決でNIE推進

【青森県青森市】第16回NIE全国大会が30日、青森市文化会館で開かれ、約850人の参加者で、新聞と教育の連携を深めるための基礎提案がなされた。講演会や分科会などで、教育と新聞の連携の在り方を考えた。大会の様子は後述。

【青森県青森市】第16回NIE全国大会が30日、青森市文化会館で開かれ、約850人の参加者で、新聞と教育の連携を深めるための基礎提案がなされた。講演会や分科会などで、教育と新聞の連携の在り方を考えた。大会の様子は後述。

2012年6月22日 発行

2011年度

沖縄県N I E実践報告書

編集 沖縄県N I E推進協議会

発行 沖縄県N I E推進協議会(会長 山内 彰)
事務局
〒900-8525
沖縄県那覇市天久905番地
琉球新報社編集局内
電話 098 (851) 5190

印刷
製本 新星出版
電話 098 (866) 0741
